



第2次白山市健康プラン



2018年（平成30年）3月
石川県白山市

「第2次白山市健康プラン」の策定にあたって

近年、「健康」を取り巻く環境は、一人ひとりの主体的な取り組みから、公的機関、地域社会からの制度、情報などの支援による健康寿命の延伸や活力ある社会の構築へと変わってきています。

本市では、平成19年3月に白山市健康プランを策定し、基本目標である「心身ともに健やかに、心豊かに暮らせるまち・白山市」の実現を目指し、これまで特定健康診査、特定保健指導など、様々な取り組みを実施してまいりました。



この健康プランも目標年度を迎え、新たに第2次計画を策定することとし、地域の実情や市民ニーズを把握するため実施したアンケートの分析や、これまで取り組んできた事業の評価を踏まえて、健康づくり推進会議を中心に協議を重ねてまいりました。

このような中、将来を担う子どもの健やかな成長を育み、働き盛り世代の生活習慣の改善を促し、そして高齢者の生きがいのある暮らしを支えるために必要となる新たな「健康づくり」の指針を市民の皆様と共に考え、第2次白山市総合計画に掲げる「健康で笑顔あふれる元気都市 白山市」の実現に向け、第2次健康プランを策定しました。

最後に、本計画の策定にあたり、アンケート調査やパブリックコメントを通じて貴重なご意見をいただきました市民の皆様並びに関係者の皆様及び熱心にご審議賜りました健康づくり推進会議委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

2018年（平成30年）3月

白山市長 山田 憲昭

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1. 計画策定の目的	1
2. 計画の位置付け	2
3. 計画の期間	2
4. 計画の基本的な考え方	3
基本理念 基本目標 施策の体系 重点施策	
第2章 第1次計画の評価	7
1. 評価の実施	7
2. 結果の評価方法について	7
3. 取り組み分野別評価	8
第3章 市民の健康の状況	11
1. 人口構成	11
2. 医療費	13
3. 介護保険の状況	14
4. 市民の健康管理状況	15
5. 健康寿命と平均寿命	17
6. アンケート調査にみる市民の健康に関する現状	18
第4章 施策の展開	29
1. 課題別の目標と対策	30
第5章 計画の推進	57
参考資料	59

第 1 章 計画策定の趣旨



白山手取川ジオパークイメージキャラクター
「ゆきママとしずくちゃん」

1. 計画策定の目的

日本人の平均寿命は飛躍的に伸び、世界でも有数の長寿国になりました。高齢化やライフスタイルの変化とともに、がん・脳卒中・糖尿病等の生活習慣病が増加し、さらには寝たきりや認知症等、要介護状態となる人も増加しており、それらに伴う医療費等の公的支出の上昇も大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、国は平成 12 年 3 月に「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」を策定し、さらにその取り組みを位置づけるものとして平成 14 年 8 月に「健康増進法」を制定しました。また、平成 24 年 7 月に「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」の全部改正を行うとともに、平成 25 年度から 2022 年度（平成 34 年度）までの「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21（第 2 次）」を策定し、すべての国民がともに支え合い、健康で幸せに暮らせる社会を目指しています。

本市においても、健康寿命の延伸を目的に平成 19 年 3 月に「白山市健康プラン」を策定し、市の恵まれた自然、文化そして歴史などの地域資源を活用するなど、市民一人ひとりがより健やかによりいきいきと暮らし、自らの健康づくりに積極的に取り組むまちづくりを目指してきました。

平成 29 年度は「白山市健康プラン」の最終年度であることから、地域の実情や市民ニーズ等を踏まえ、2018 年度（平成 30 年度）からの新たな取り組みに向けての評価・見直しを行い、「第 2 次白山市健康プラン」を策定しました。

「第 2 次白山市総合計画」の将来都市像「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現のため、国の「健康日本 21（第 2 次）」や県の「いしかわ健康フロンティア戦略」の取り組みを参考にしながら、市民一人ひとりが主体的に健康的な生活習慣を実践し、いつまでも元気で住みなれた場所で暮らせるように、生活習慣病の発症予防など各種保健サービスの充実を図っていきます。

※本文中の表記について

元号が 2019 年（平成 31 年）に変わるため、以下のとおり表記します。

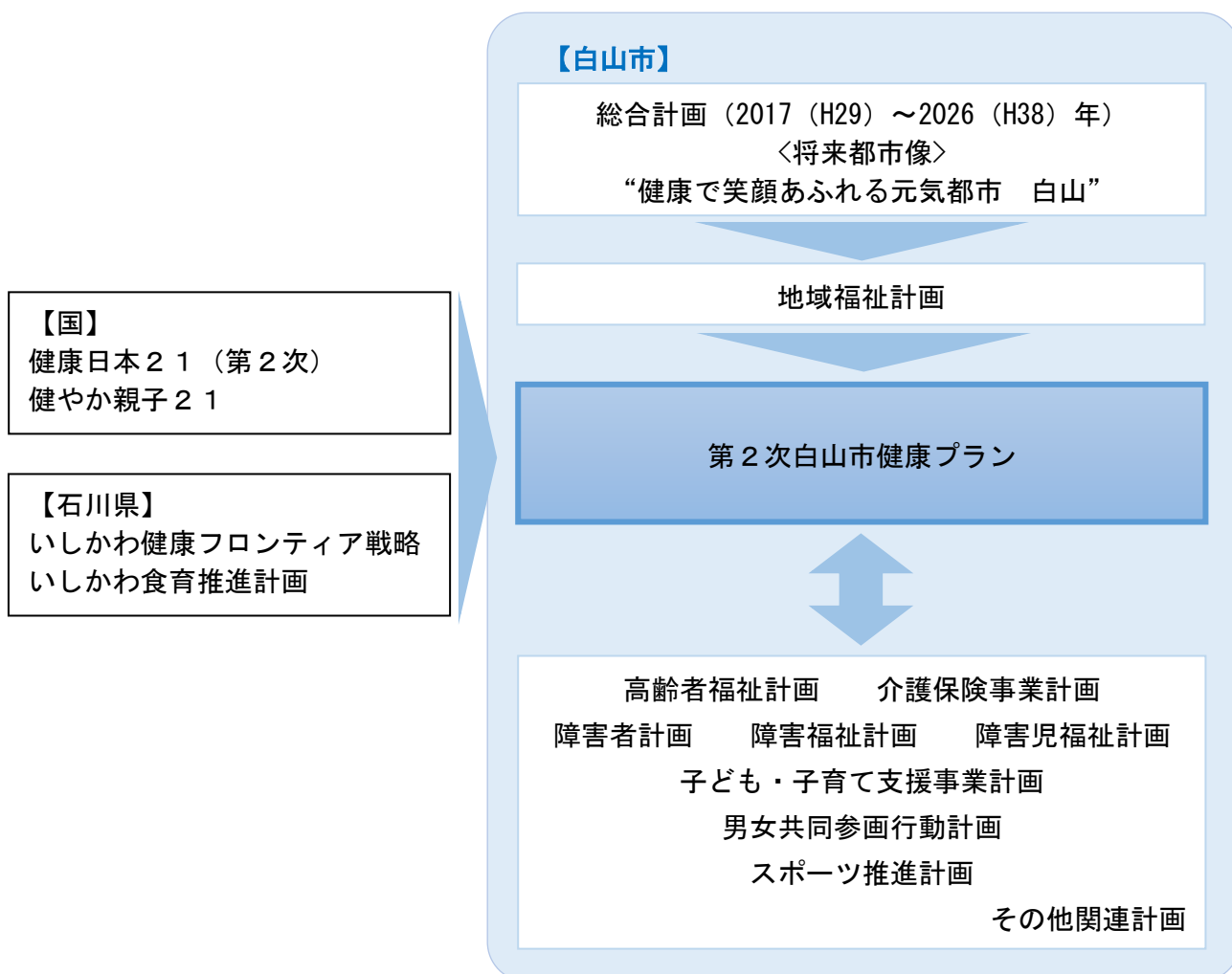
		表記方法	例
本文中	平成 29 年まで	元号 (西暦のみ記載のグラフの説明文は、西暦と元号の併記)	平成 29 年 (2017 年(平成 29 年))
	平成 30 年以降	西暦と元号の併記	2018 年 (平成 30 年)
グラフ		西暦と元号 (省略) の併記 (欄が小さい場合は西暦のみ)	2015 年 (H27 年) (2015 年)

2. 計画の位置付け

白山市健康プラン（食育推進計画含む）は、国の「健康日本21（第2次）」の地方計画として、また「白山市総合計画」・「地域福祉計画」を上位計画とした市民の健康づくりに関する計画として策定します。

なお、計画の推進にあたっては、県の「いしかわ健康フロンティア戦略」や「いしかわ食育推進計画」をはじめ、「高齢者福祉計画」・「介護保険事業計画」・「障害者計画」等とも役割分担を図りながら、健康づくり施策を効果的に推進していきます。

図. 各種計画との関連



※市の関連計画については、（第〇次）等の標記を省略

3. 計画の期間

本計画の期間は、健康日本21（第2次）等の見直し時期と歩調を合わせ、2018年度（平成30年度）を初年度とし、2022年度（平成34年度）を目標年度とする5か年とします。

なお、計画を推進していく過程において、社会・経済情勢や健康づくりを取り巻く環境の変化により、新たな施策の展開、計画の見直しが必要になった場合には、柔軟に対応していきます。

4. 計画の基本的な考え方

■基本理念■

第2次白山市総合計画では、全ての市民が、家庭や地域、社会などの様々な舞台で個性を発揮し、一人ひとりが心も体も健康で、活躍するまちを目指しています。

第2次白山市健康プランでは、総合計画の基本理念を踏まえ、国の健康日本21（第2次）の最終目標でもある「健康寿命の延伸」に取り組みます。

「健康寿命の延伸」のため、心と体の健康づくり、自助（本人）だけではなく、公助（健康づくりに関係する公的機関等）、共助（家族、地域社会）による健康づくりに取り組むこととし、以下のとおり基本理念を定めます。

心身ともに元気で、いつまでも地域で生活できるように、
市民協働による健康づくりを推進し、
健康寿命の延伸に取り組みます

■基本目標■

基本理念の実現のため、以下のとおり3つの基本目標を定めます。

健康づくりにおいて、主体的かつ積極的に取り組むことが、もっとも効果的なことから、

「自らの健康づくり」を目指します

健康づくりにおいて、心と体のバランスを整えること、また心身機能の弱い「子ども」・「高齢者」に配慮することが大切なことから、

「心と体の健康づくり」を目指します

健康づくりにおいて、万病の元となる生活習慣病の発症・重症化予防など医療的な視点による「健康管理」が最も大切なことから、

充実した健診体制による「健康管理」を目指します

■ 施策の体系 ■

基本理念	心身ともに元気で、いつまでも地域で生活できるように、市民協働による健康づくりを推進し、健康寿命の延伸に取り組みます
------	---

基本目標	国の掲げる「4つの柱」	取り組み分野
「自らの健康づくり」 を目指します	健康的な生活習慣の確立	栄養・食生活
		身体活動・運動
		休養
		たばこ
		アルコール
		歯の健康
「心と体の健康づくり」 を目指します	社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	心の健康
		子どもの健康
		高齢者の健康
充実した健診体制による 「健康管理」 を目指します	健康を支え、守るための社会環境の整備	健康を守る環境整備
		がん
		生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
		循環器疾患・糖尿病
		慢性閉塞性肺疾患（COPD）

■重点施策■

重点施策① 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

脳卒中、心筋梗塞等の循環器疾患の発症を予防するために、メタボリックシンドローム（内臓脂肪型肥満）対策に取り組みます。特に糖尿病は、合併症を併発することによって、QOL（生活の質）等に大きな影響を及ぼすことから、発症予防とあわせ、重症化予防に取り組みます。

- ・ 特定健康診査、保健指導の充実
- ・ 医療機関との情報共有、指導体制の確立
- ・ 白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会への参加

※白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会については、次ページを参照

重点施策② 子どもと高齢者の健康づくり

心身機能が未成熟な子ども、若いころに比べ心身機能が低下する高齢者の健康づくりを支援します。

子どもの健康づくりにおいては、妊娠前、妊娠期の母親の心と体の健康づくりから始まり、子どもの健やかな発育とより良い生活習慣の形成を支援し、生涯を通じて健やかで心豊かな生活を送るための基礎づくりに取り組みます。

高齢者の健康づくりにおいては、QOL（生活の質）の向上を図るため、生活習慣病の重症化予防をはじめ、食事や運動、社会参加や社会貢献を中心とした活動の充実を図り、生きがいのある豊かな生活に必要な健康づくりに取り組みます。

- ・ 子育て世代包括支援センターの設置による切れ目のない支援
- ・ 金沢広域急病センターの開設による夜間小児救急医療の充実
- ・ 健康教育、健康相談の充実による認知症、介護予防の取り組み

重点施策③ 心の健康づくり

人がいきいきと自分らしく生きるためには、体の健康づくりのほか、心の健康づくりに取り組む必要があります。

心の病気として代表的なうつ病・うつ状態は「心のかぜ」とも言われ、程度の差はあれ、誰にでも起こりうる病気です。心の病気を抱える本人、そして家族を含む周りの人たちが気づかずに重症化させる場合があるため、病気への正しい理解、正しい対処法が必要であり、相談体制の充実、心の健康づくりに関する情報発信に取り組みます。

- ・ 心の健康を含めた総合的な自殺対策への取り組み

白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会

設 立	平成26年6月
目 的	診療連携体制の構築を図り、糖尿病患者の早期発見・早期治療及び重症化予防に取り組むことを目的とします。 (石川県第6次医療計画において、保健と医療が一体的に対策を推進するため、郡市医師会単位で取り組むことになりました。)
委 員	公立松任石川中央病院、公立つるぎ病院、医師会、眼科医会、歯科医師会、薬剤師会、行政（白山市、野々市市）、石川中央保健福祉センター
その他	白山市は、委員として協議会に参加しています。

第2章 第1次計画の評価



1. 評価の実施

20歳以上の白山市民・小学5年生・中学2年生・3歳児保護者向けに意識調査を行い、結果を分析しました。

表. 調査の概要

	一般	子ども	保護者
調査対象	20歳以上の白山市民 男女2,000名	小学5年生、中学2年生 700名	3歳児の保護者 300名
調査期間	2017年(H29年)8月	2017年(H29年)8～9月	2017年(H29年)8～9月
調査方法	郵送による送付・回収	学校を通じて直接配布・回収	保育所・幼稚園等を通じて 直接配布・回収
回収状況	有効回答数 654件 有効回答率 32.7%	有効回答数 697件 有効回答率 99.6%	有効回答数 241件 有効回答率 80.3%

2. 結果の評価方法について

目標達成状況を下記の判定基準で評価しました。

【判定基準】

- A : 目標数値に達しているもの
- B : 目標数値には達していないが、改善に向かっているもの
- C : 目標数値と比較して、悪化もしくは改善していないもの

※次ページ以降の「取り組み分野別評価」の数値(%)は、母数に「性別不明」等を含むため、「第2次白山市健康プランにかかるアンケート調査結果とりまとめ」と誤差が生じる場合があります。

3. 取り組み分野別評価

①栄養・食生活

目標項目		策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価
肥満者の減少 (適正体重を維持している人の増加)	小学生	12.7%	10.6%	1.7%	10.0%以下	A
	中学生	4.4%	2.3%	2.1%	2.0%以下	B
	20～60代男性	20.5%	21.4%	29.9%	20.0%以下	C
	40～60代女性	16.9%	14.1%	13.9%	12.0%以下	B
野菜を毎日食べる人の増加	男性	71.6%	80.2%	80.9%	増加	A
	女性	85.8%	89.2%	92.6%	増加	A
朝食を欠食する人の減少	小学生	19.5%	11.0%	2.5%	10.0%以下	A
	中学生	22.7%	13.1%	5.1%	10.0%以下	A
	20代男性	39.1%	38.2%	34.7%	35.0%以下	A
	20代女性	25.5%	27.4%	24.1%	25.0%以下	A
	30代男性	34.4%	31.2%	27.7%	30.0%以下	A
	30代女性	17.9%	14.4%	16.4%	13.0%以下	C
塩分に注意する人の増加	15歳以上の男女	62.8%	64.6%	62.5%	増加	C
食べ過ぎないように心がけている人の増加	15歳以上の男女	-	68.8%	74.2%	増加	A
毎日間食をする人の減少	15歳以上の男女	-	31.9%	40.2%	減少	C

②身体活動・運動

目標項目		策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価
運動習慣者の増加	男性	35.4%	42.0%	39.0%	45.0%以上	C
	女性	32.7%	37.4%	37.1%	40.0%以上	C
1日平均歩行数の増加	男性	6,148歩	6,155歩	5,873歩	7,000歩以上	C
	女性	6,773歩	5,903歩	4,671歩	7,500歩以上	C

③休養・心の健康

目標項目	策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価
最近1か月にストレスを感じた人の減少	63.2%	48.0%	55.7%	43.0%以下	C

④たばこ

目標項目	策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価	
成人喫煙者の減少	成人男性	39.5%	23.9%	28.7%	20.0%以下	C
	成人女性	9.5%	6.9%	6.6%	5.0%以下	B
小中学校における敷地内禁煙校の増加	小学校	0.0%	100%	100%	-	A
	中学校	0.0%	100%	100%	-	A
公共の場の分煙の徹底	市庁舎等公共の場	96.3%	100%	100%	-	A
公共の場のルーム形式分煙化の強化	市庁舎等公共の場	-	27.3%	76.2%	50.0%以上	A

⑤アルコール

目標項目	策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価	
多量飲酒（1日3合以上飲酒）者の減少	男性	7.8%	2.8%	5.1%	減少	C
	女性	1.6%	0.6%	3.7%	減少	C

⑥歯の健康

目標項目	策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価
むし歯のある幼児（3歳児）の減少	36.3%	17.6%	17.4%	15.0%以下	B

⑦健康管理

目標項目		策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H21)	現状値 2015 (H27)	目標値 2017 (H29)	評価
特定健康診査を受ける人の増加	男性	-	35.7%	46.9%	80.0%以上	B
	女性	-	47.2%	56.1%	80.0%以上	B
特定保健指導を受ける人の増加	男性	-	25.9%	75.5%	60.0%以上	A
	女性	-	37.0%	83.0%	60.0%以上	A
高血圧症者の減少（血圧値受診勧奨値者の割合140/90mmHg以上）	男性	-	26.5%	27.3%	23.9%以下	C
	女性	-	20.2%	21.1%	18.2%以下	C
脂質異常症者の減少（LDLコレステロール受診勧奨値者の割合140mg/dl以上）	男性	-	19.9%	19.6%	17.9%以下	B
	女性	-	30.3%	28.4%	27.3%以下	B
糖尿病者の減少（HbA1c受診勧奨値者の割合6.1%以上）	男性	-	13.1%	13.5%	11.8%以下	C
	女性	-	7.3%	6.9%	6.6%以下	B
新規透析者人数の伸びを抑える	新規透析者	-	24人 (H22)	25人 (H28)	減少	C
がん検診の受診者の増加	胃がん	-	3,040人 (H22)	3,488人 (H29)	3,340人以上	A
	子宮がん	-	2,977人 (H22)	3,294人 (H29)	3,270人以上	A
	乳がん	-	1,919人 (H22)	2,422人 (H29)	2,110人以上	A
	肺がん	-	4,308人 (H22)	4,666人 (H29)	4,730人以上	B
	大腸がん	-	6,468人 (H22)	7,782人 (H29)	7,110人以上	A

⑧主観的健康観の向上

目標項目		策定時の状況 2005 (H17)	中間評価 の状況 2010 (H22)	現状値 2017 (H29)	目標値 2017 (H29)	評価
自分が健康であると感じている人の増加	15歳以上の男性	53.2%	58.3%	52.2%	65.0%	C
	15歳以上の女性	59.1%	63.2%	57.0%	70.0%	C

第3章 市民の健康の状況

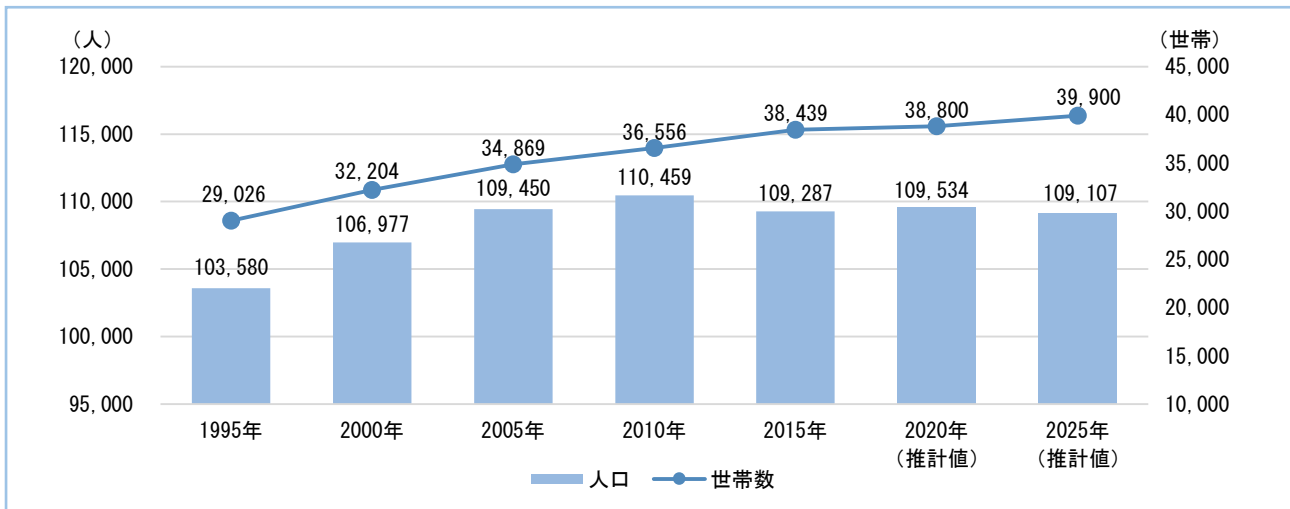


1. 人口構成

(1) 人口と世帯数

本市の人口は2010年（平成22年）をピークに2015年（平成27年）は減少に転じていますが、世帯数は増加しています。

図. 人口と世帯数の推移

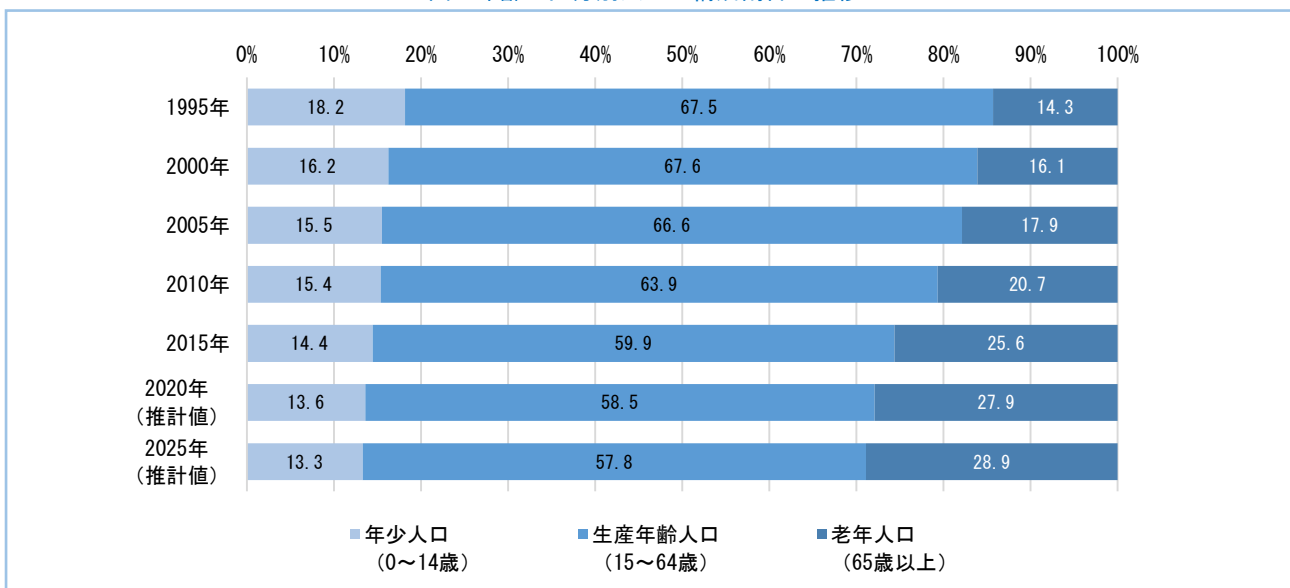


資料：1995年（H7年）～2015年（H27年）は「国勢調査」
2020年（H32年）、2025年（H37年）は「第2次白山市総合計画」（「白山市人口ビジョン」に基づく推計値）

(2) 年齢3区分別人口構成

本市の年齢3区分別人口の構成割合は、年少人口や生産年齢人口が減少し、老年人口が増加しています。

図. 年齢3区分別人口の構成割合の推移

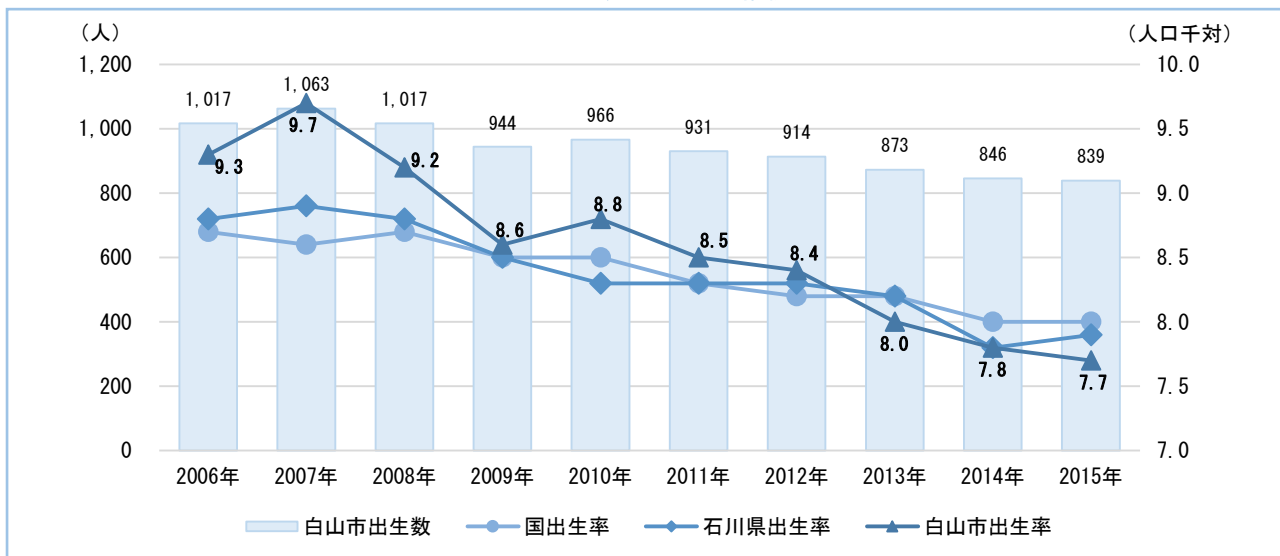


資料：1995年（H7年）～2015年（H27年）は「国勢調査」
2020年（H32年）、2025年（H37年）は「第2次白山市総合計画」（「白山市人口ビジョン」に基づく推計値）

(3) 出生数と出生率

本市の出生数は減少しており、また出生率においても2013年（平成25年）から国や県より低くなっています。

図. 出生数と出生率の推移

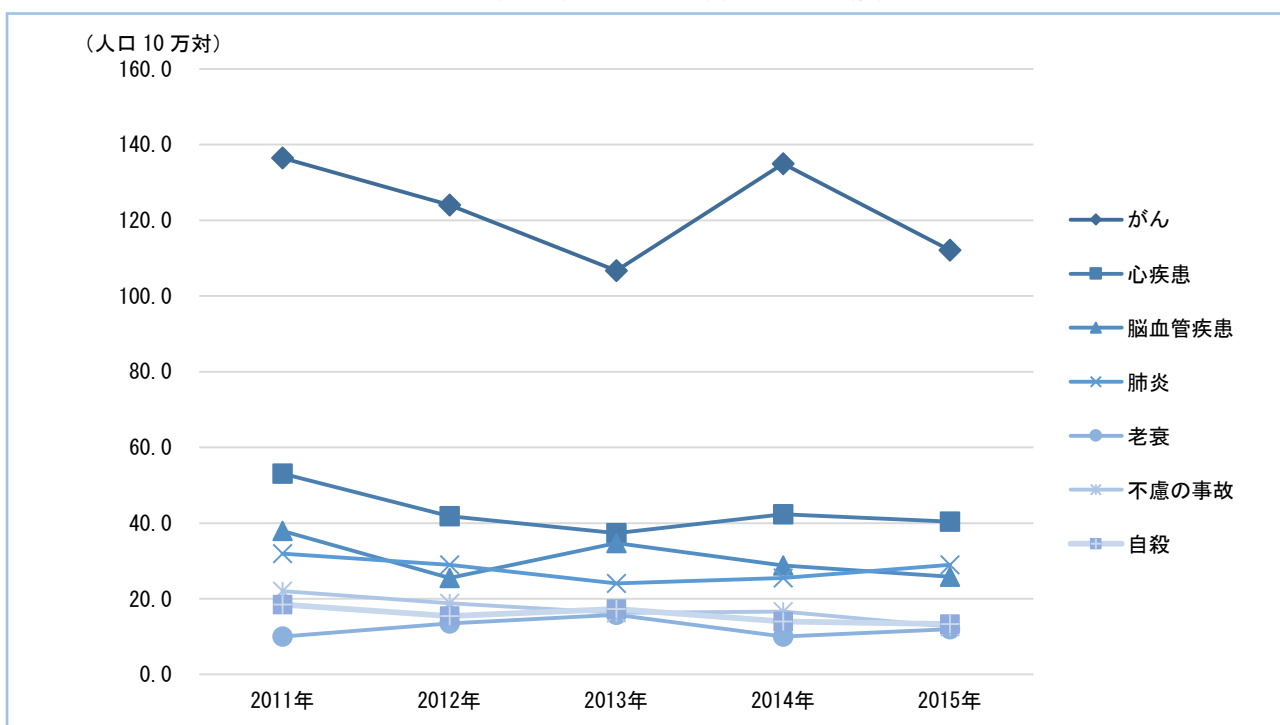


資料：厚生労働省「人口動態統計」、石川県「衛生統計年報」

(4) 年齢調整死亡率

本市の主要死因別年齢調整死亡率は、「がん」が死因の第1位で推移しており、次いで「心疾患」となっています。第3位の死因をみると、2014年（平成26年）は「脳血管疾患」でしたが、2015年（平成27年）では「肺炎」となっています。

図. 白山市の主要死因別年齢調整死亡率の推移



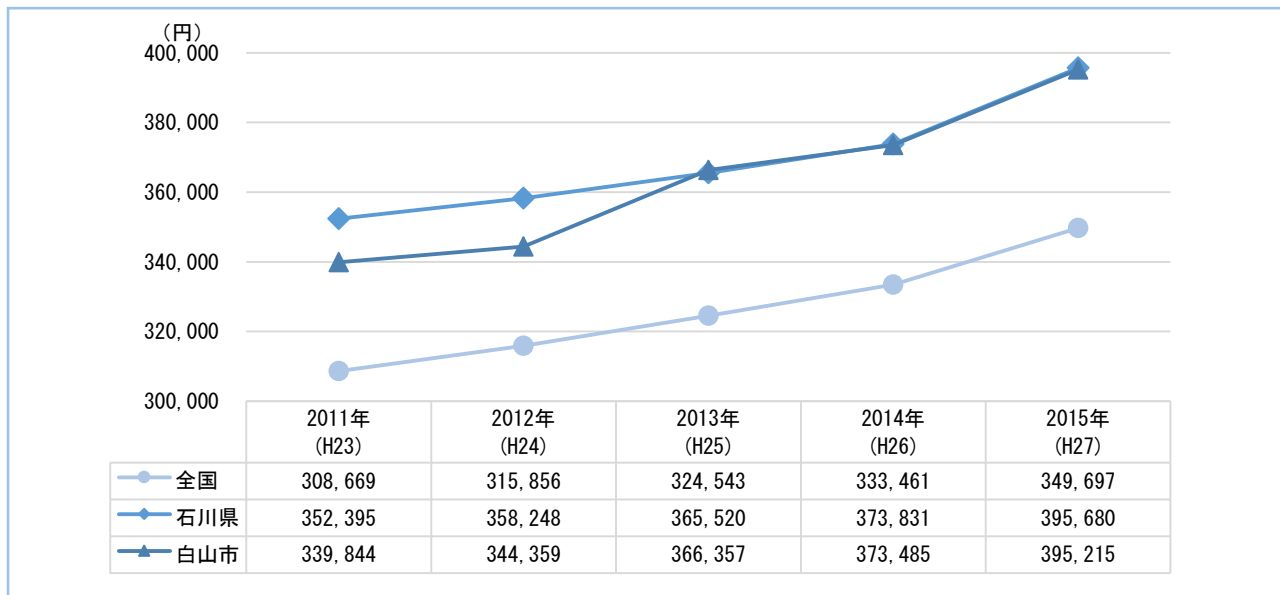
資料：石川県「衛生統計年報」

2. 医療費

(1) 国民健康保険の一人あたり医療費

本市の国民健康保険の一人あたり医療費は増加しており、全国より高く、2013年（平成25年）以降は石川県平均とほぼ同額となっています。

図. 国民健康保険の一人あたり療養費の推移

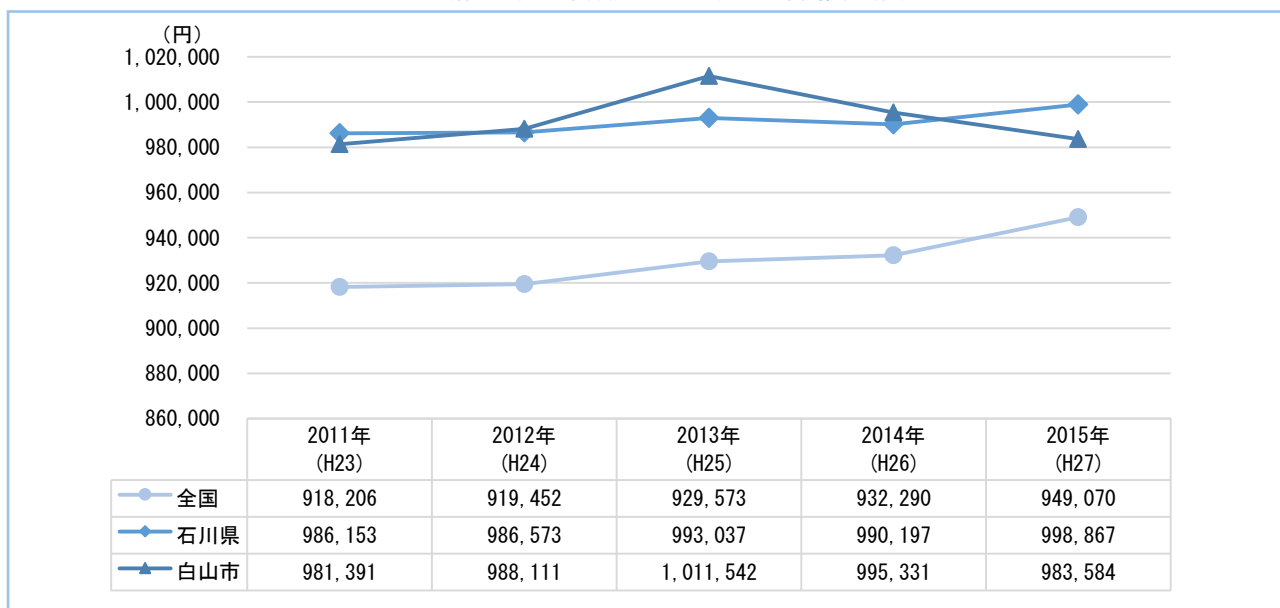


資料：【全国】厚生労働省「健康保険事業年報」
 【石川県】石川県国民健康保険団体連合会「グラフで見る石川県の国保と介護」
 【白山市】白山市保険年金課調べ

(2) 後期高齢者医療保険の一人あたり医療費

本市の後期高齢者医療保険の一人あたり医療費は2013年（平成25年）をピークに減少しており、2015年（平成27年）は全国より高く、石川県より低くなっています。

図. 後期高齢者医療保険の一人あたり療養費の推移



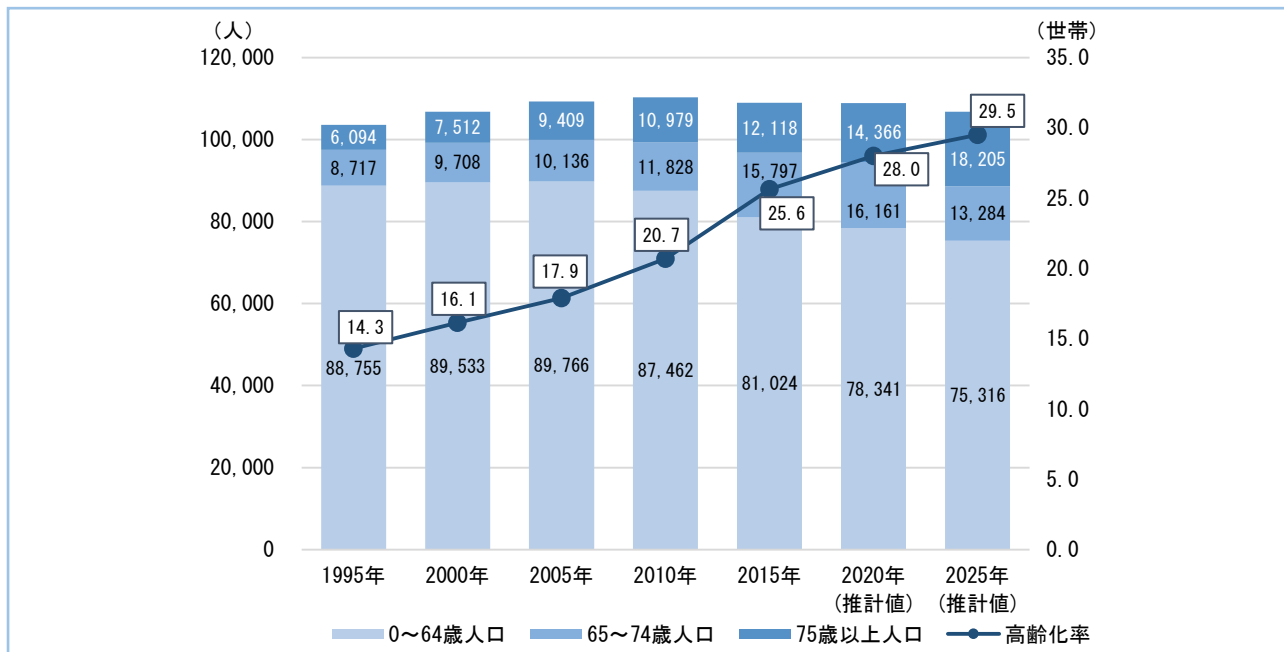
資料：【全国】厚生労働省「後期高齢者医療事業年報」
 【石川県・白山市】石川県後期高齢者広域連合調べ

3. 介護保険の状況

(1) 高齢者人口・高齢化率

本市の高齢化率（65歳以上の人口割合）は増加しており、2015年（平成27年）は25.6%、2025年（平成37年）には3人に1人が65歳以上と推計されています。

図. 高齢者人口・高齢化率の推移

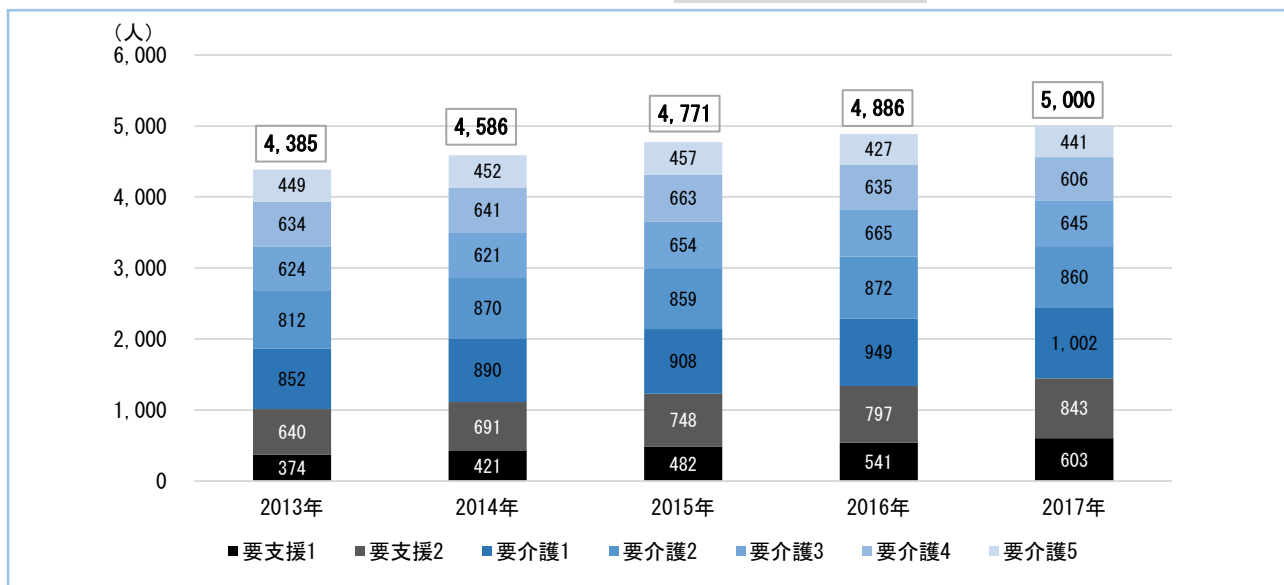


資料：1995年（H7年）～2015年（H27年）は「国勢調査」
2020年（H32年）、2025年（H37年）は「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）国立社会保障・人口問題研究所

(2) 要介護等認定者の現状

本市の要支援・要介護認定者数は増加しており、2017年（平成29年）の要支援認定者数は1,446人、要介護認定者数は3,554人となっています。

図. 要介護等認定状況の推移（各年3月31日現在）



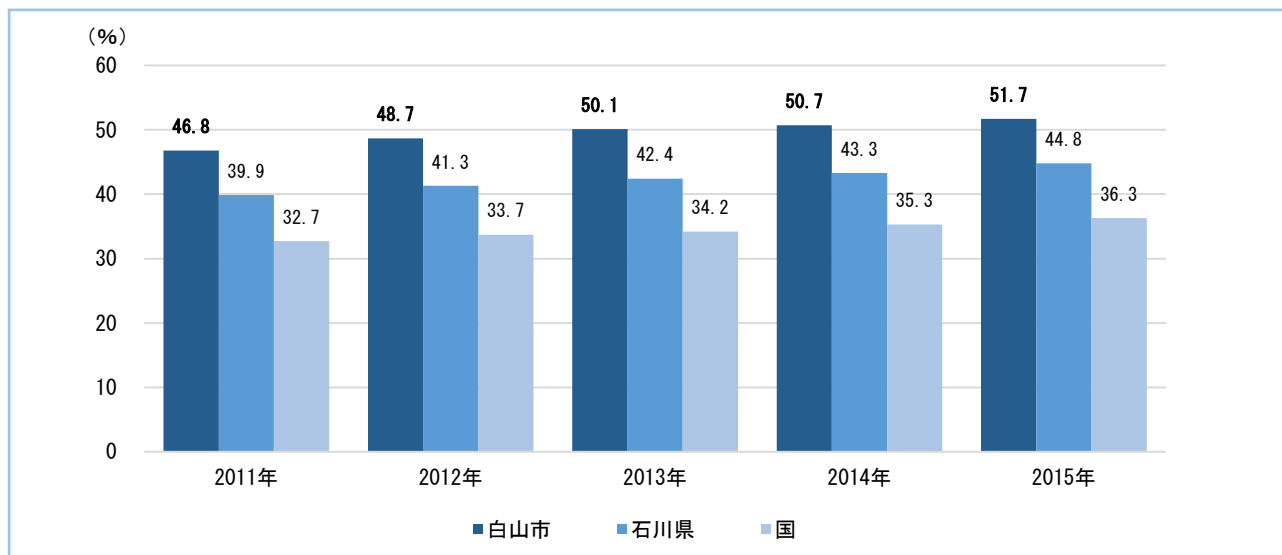
資料：「白山市の健康と福祉」

4. 市民の健康管理状況

(1) 国民健康保険特定健康診査の受診状況

本市の国民健康保険特定健康診査の受診率は増加しており、県や国より高い受診率になっています。

図. 国民健康保険特定健康診査の受診率の推移

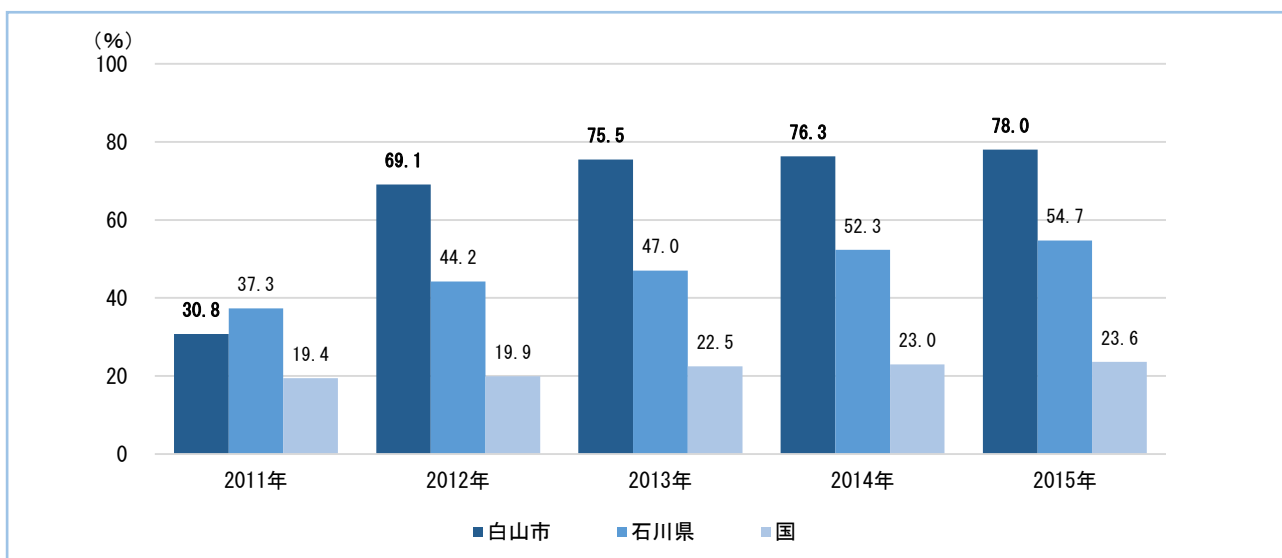


資料：白山市いきいき健康課調べ

(2) 国民健康保険特定保健指導の状況

本市の国民健康保険特定保健指導の実施率は増加しており、2012年（平成24年）以降は県や国より高い実施率になっています。

図. 国民健康保険特定保健指導の実施率の推移



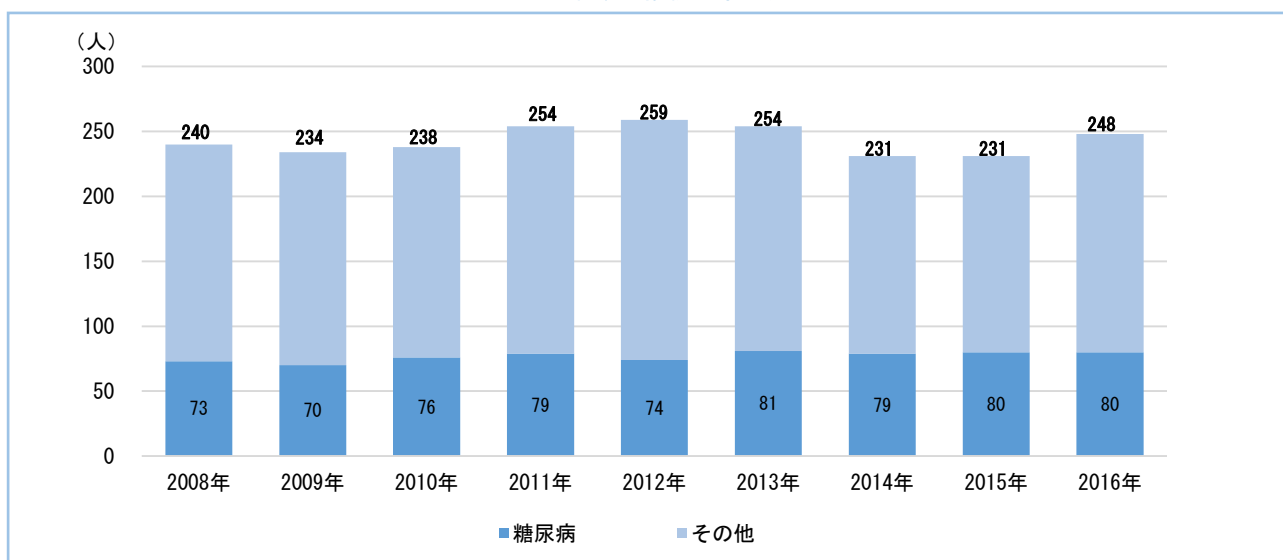
資料：白山市いきいき健康課調べ

(3) 人工透析患者の状況

人工透析患者数は、2012年度（平成24年度）以降減少傾向にありましたが、2015年度（平成27年度）から2016年度（平成28年度）にかけて再び増加しています。予防可能な「原因疾患が糖尿病」の患者数は、約3割で推移しています。

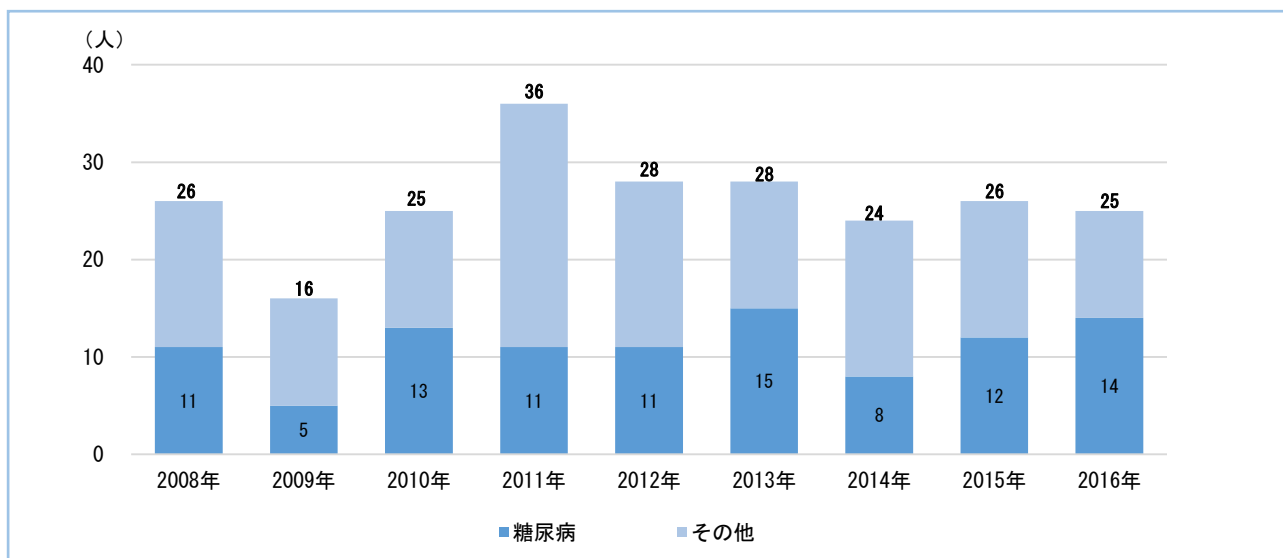
新規人工透析患者数は、2012年度（平成24年度）に減少し、2016年度（平成28年度）は新規人工透析患者数の半数以上を「原因疾患が糖尿病」が占めています。

図. 人工透析患者数の推移（原因疾患別）



資料：白山市いきいき健康課調べ

図. 新規人工透析患者数の推移（原因疾患別）



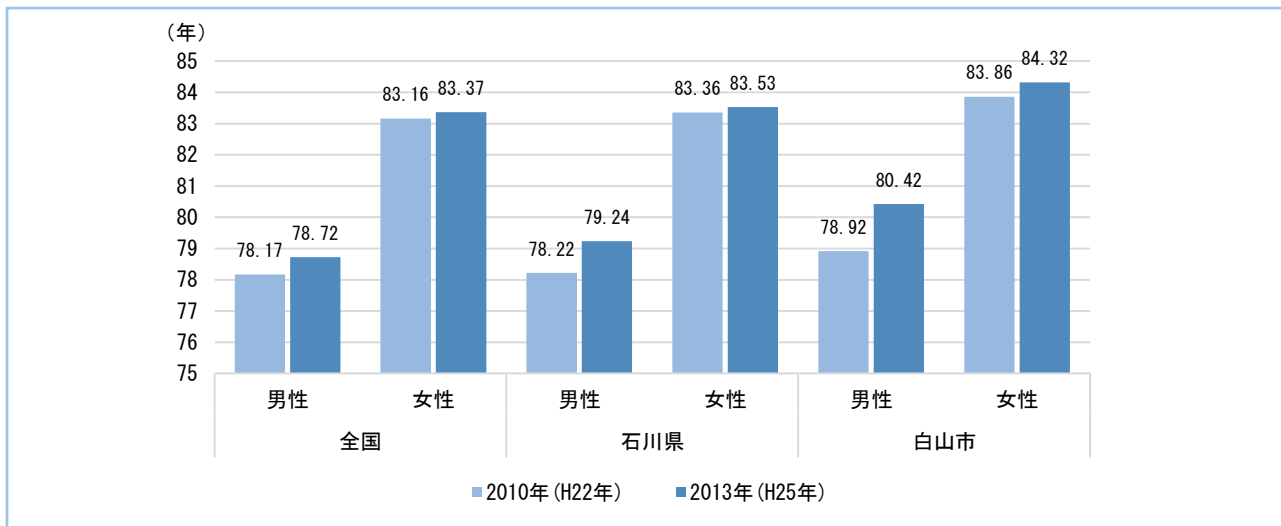
資料：白山市いきいき健康課調べ

5. 健康寿命と平均寿命

本市の健康寿命「日常生活動作が自立している期間の平均」は、全国や石川県より長く、男女ともに延伸しています。また、平均寿命と健康寿命の差をみると、男性より女性が大きくなっています。

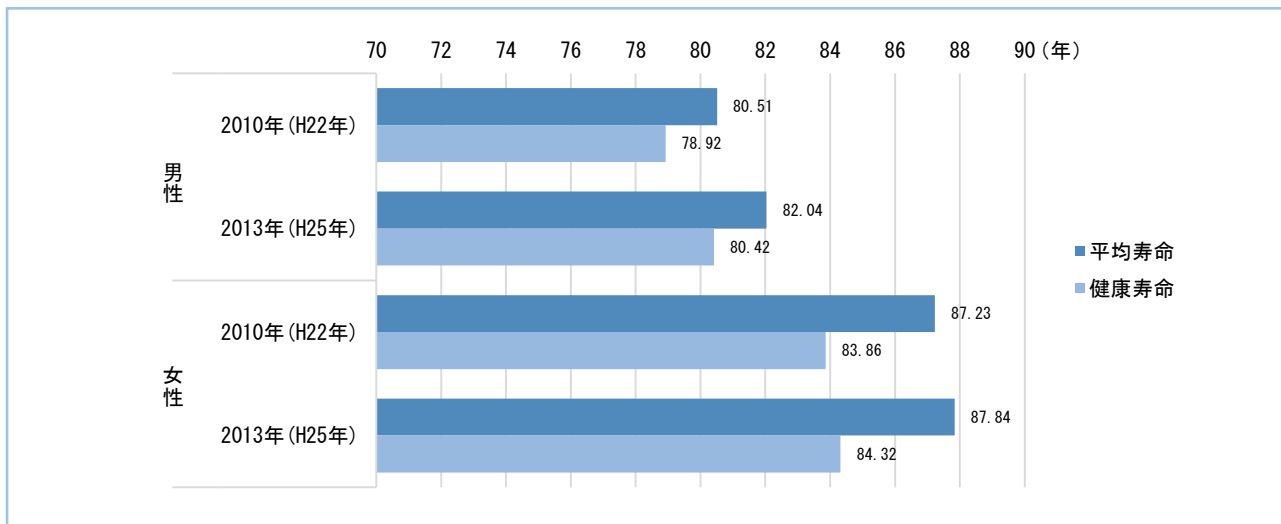
※「日常生活動作が自立している期間の平均」…要介護2～5の認定者数をもとに算出

図. 健康寿命「日常生活動作が自立している期間の平均」



※全国、石川県の値は厚生労働科学研究班「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」の数値を引用
白山市の値は厚生労働科学研究班「健康寿命の算定プログラム」により算出

図. 白山市の平均寿命と健康寿命



※厚生労働科学研究班「健康寿命の算定プログラム」により算出

「健康寿命」の考え方について

一般的に国が公表する「健康寿命」は、外国との比較を容易にするため、国民生活基礎調査（アンケート）のデータを元に算定しています。市町村は、サンプル数の少ない国民生活基礎調査ではなく、介護保険のデータを元に「健康寿命」を算定するのが一般的です。

よって、国が一般的に公表するアンケートを基にした「健康寿命」と、市町村が公表する要介護認定者数を基にした「健康寿命」は比較できませんので、ご注意ください。

6. アンケート調査にみる市民の健康に関する現状

■調査結果の見方

1. 調査結果は百分率で表示し、百分率は小数第2位を四捨五入しています。よって、合計値が100%にならない場合があります。
2. 複数回答が可能な質問の百分率は、各選択肢の回答数を本調査の総回答数で割った数値です。よって、各項目の比率の合計値が100%にはなりません。
3. 表中に「N」と記してあるのは、対象者の総数です。

※アンケート結果の詳細は、市ホームページに掲載しています。

[トップページ](#) ⇒ [健康・福祉](#) ⇒ [市民の健康](#) ⇒ [第2次白山市健康プラン](#)

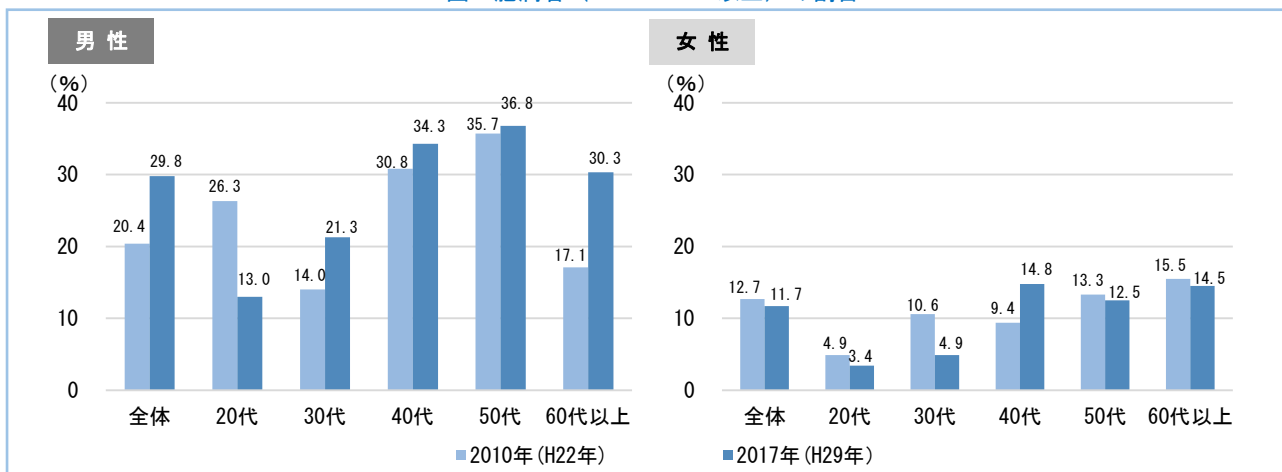
からご覧ください

(1) 栄養・食生活

①肥満者

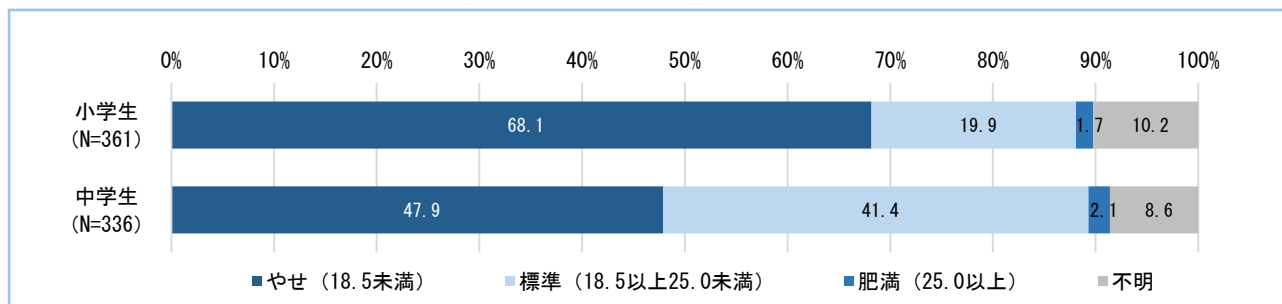
肥満者の割合は、全ての年代において女性より男性が多く、40代以上の割合が多い傾向にあります。前回調査と比べると、男性は30代以上、女性は40代で肥満者の割合が増加しています。

図. 肥満者（BMI 25.0以上）の割合



資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

図. 小中学生のやせ・肥満の割合（2017年(H29年)）

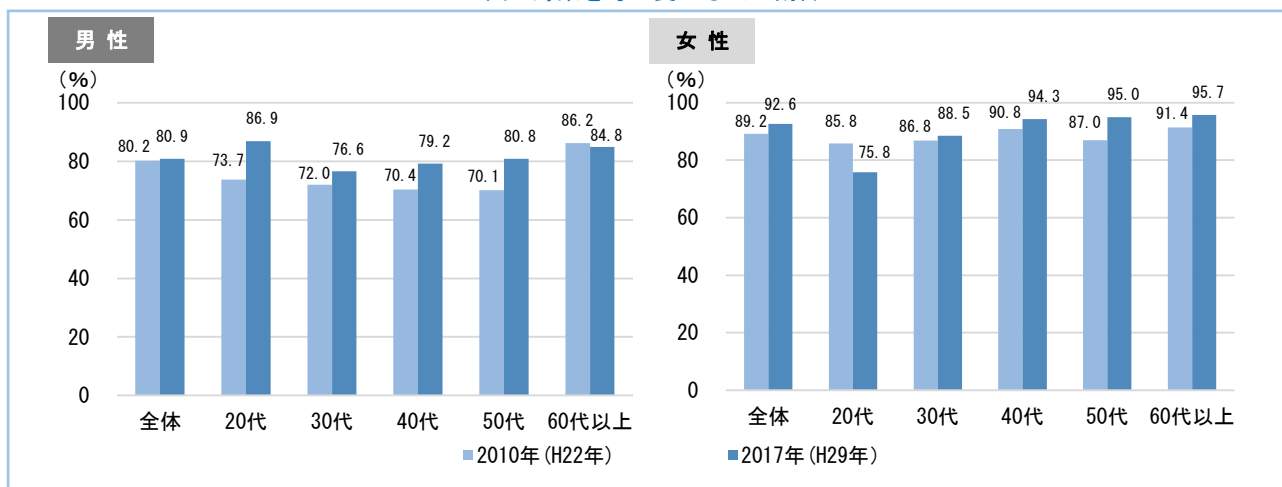


資料：白山市健康に関するアンケート調査（小中学生）

②野菜の摂取

野菜を毎日食べる人の割合は、男女ともに7割以上と多くなっています。前回調査と比べると、男性は60代以上、女性は20代で野菜を毎日食べる人の割合が減少しています。

図. 野菜を毎日食べる人の割合

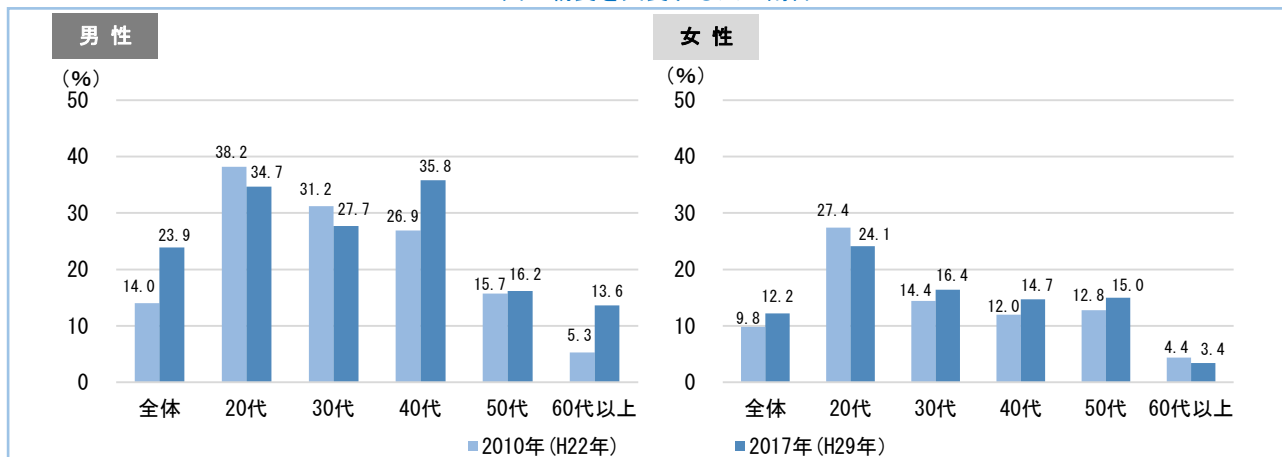


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

③朝食の欠食

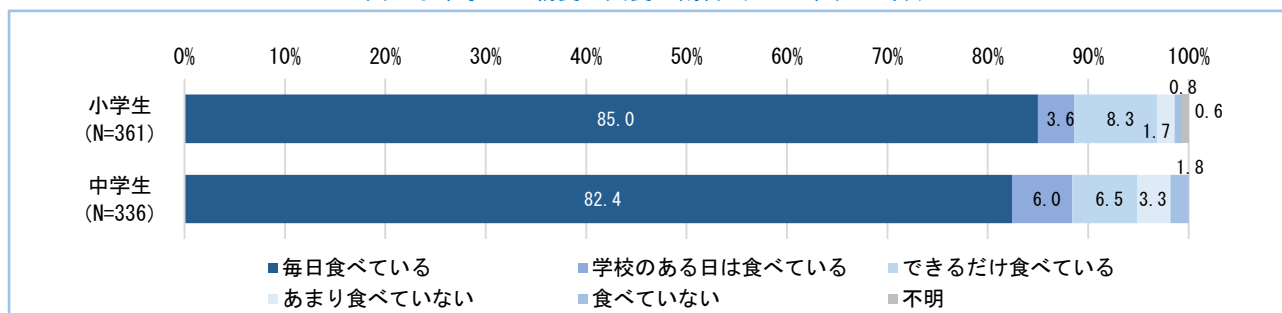
朝食を欠食する人の割合は、全ての年代において女性より男性が多く、若い人ほど欠食している傾向があります。前回調査と比べると、男性は40～60代、女性は30～50代で朝食を欠食する人の割合が増加しています。

図. 朝食を欠食する人の割合



資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

図. 小中学生の朝食の欠食の割合（2017年 (H29年)）

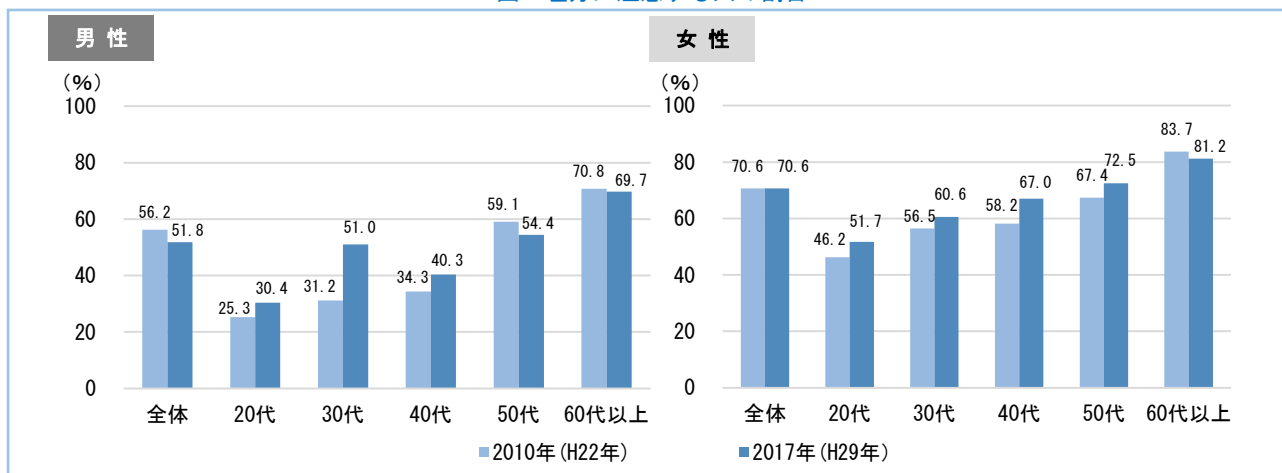


資料：白山市健康に関するアンケート調査（小中学生）

④塩分への注意

塩分に注意する人の割合は、全ての年代において男性より女性が多く、年齢が高くなるほど注意している傾向があります。前回調査と比べると、男性は50代以上、女性は60代以上で塩分に注意する人の割合が減少しています。

図. 塩分に注意する人の割合

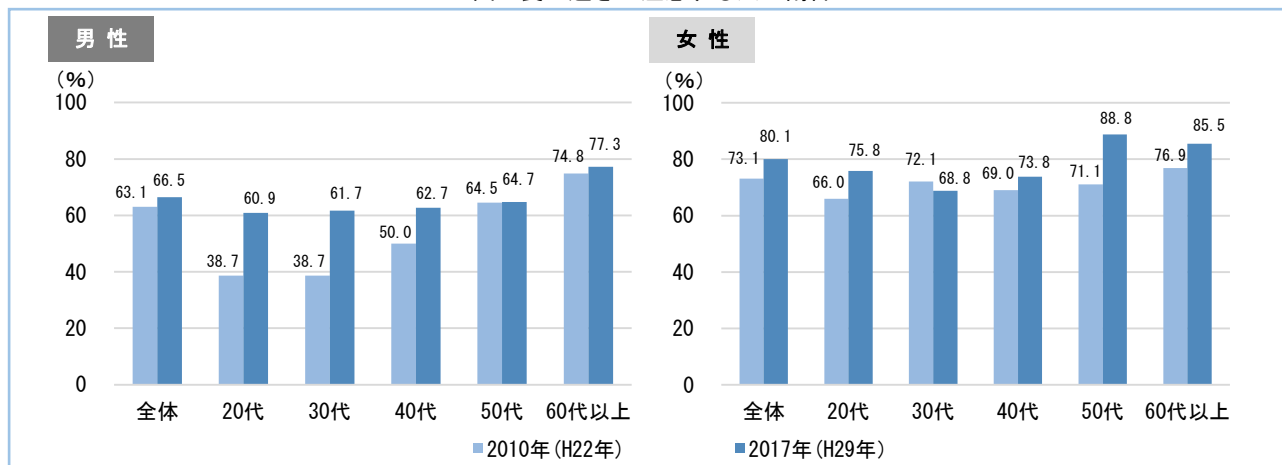


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

⑤食べ過ぎへの注意

食べ過ぎに注意する人の割合は、全ての年代において男性より女性が多く、前回調査と比べると、女性の30代を除いて、男女ともに食べ過ぎに注意する人の割合が増加しています。

図. 食べ過ぎに注意する人の割合

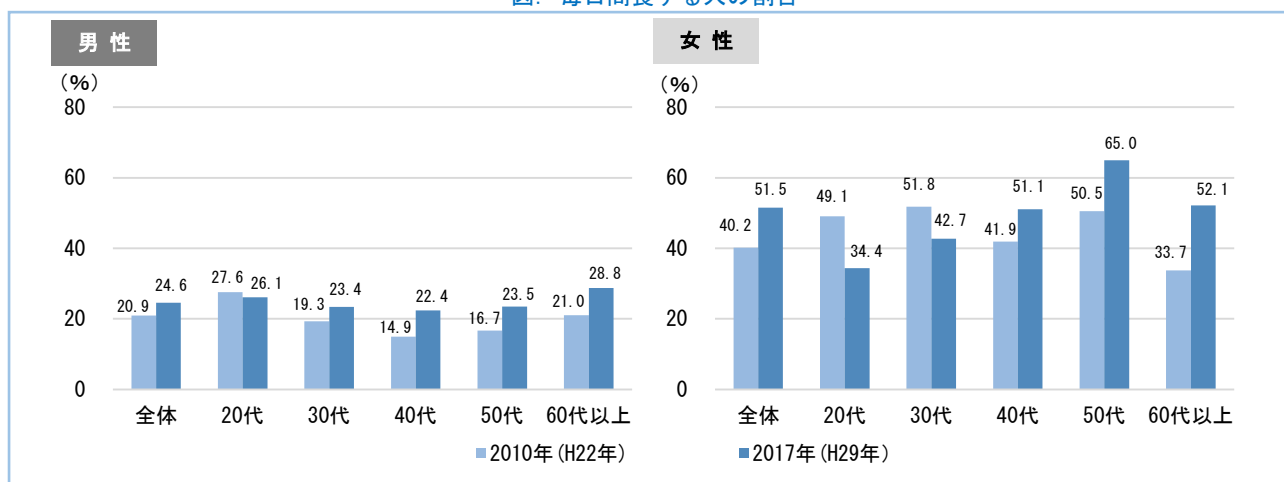


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

⑥間食

毎日間食する人の割合は、全ての年代において男性より女性が多くなっています。前回調査と比べると、男性は30代以上、女性は40代以上で毎日間食する人の割合が増加しています。

図. 毎日間食する人の割合



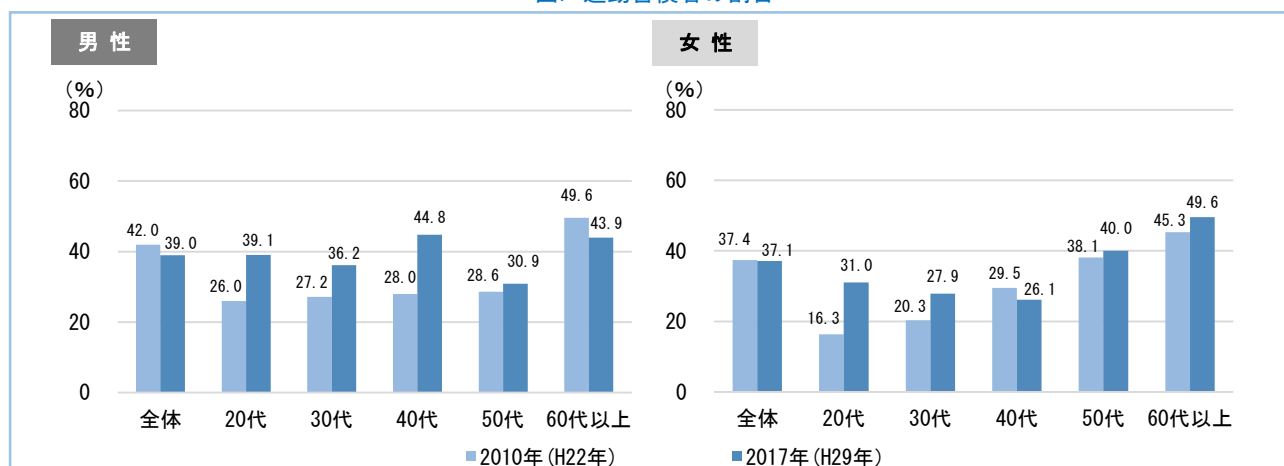
資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(2) 身体活動・運動

①運動習慣者

運動習慣者の割合は、40代までは男性が多く、50代以降は女性が多くなっています。前回調査と比べると、男女ともに運動習慣者の割合がわずかに減少しています。

図. 運動習慣者の割合

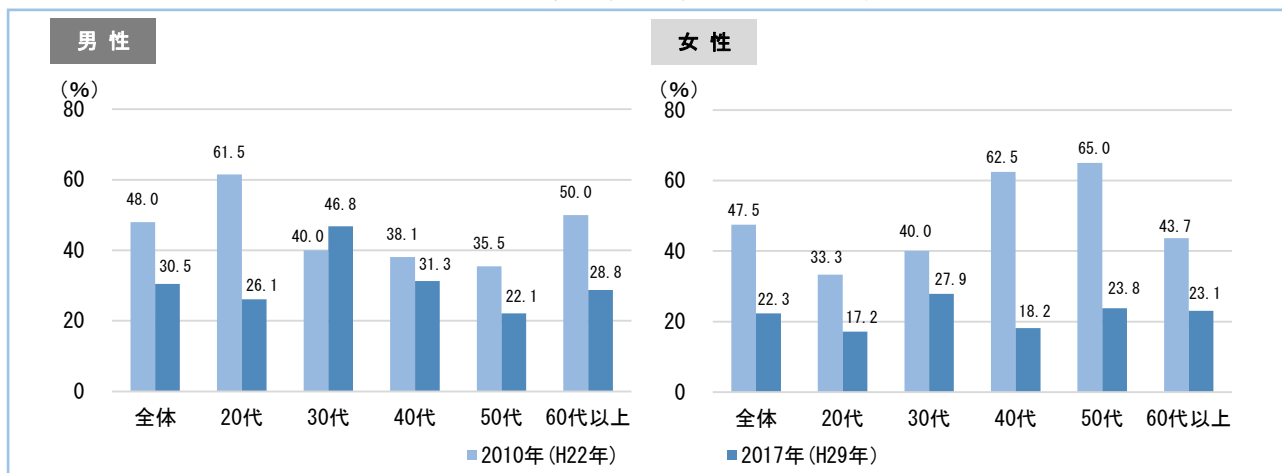


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

② 1日に6,000歩以上歩いている人

1日に6,000歩以上歩いている人の割合は、前回調査と比べると、男性30代を除いて、男女ともに減少しています。

図. 1日に6,000歩以上歩いている人の割合

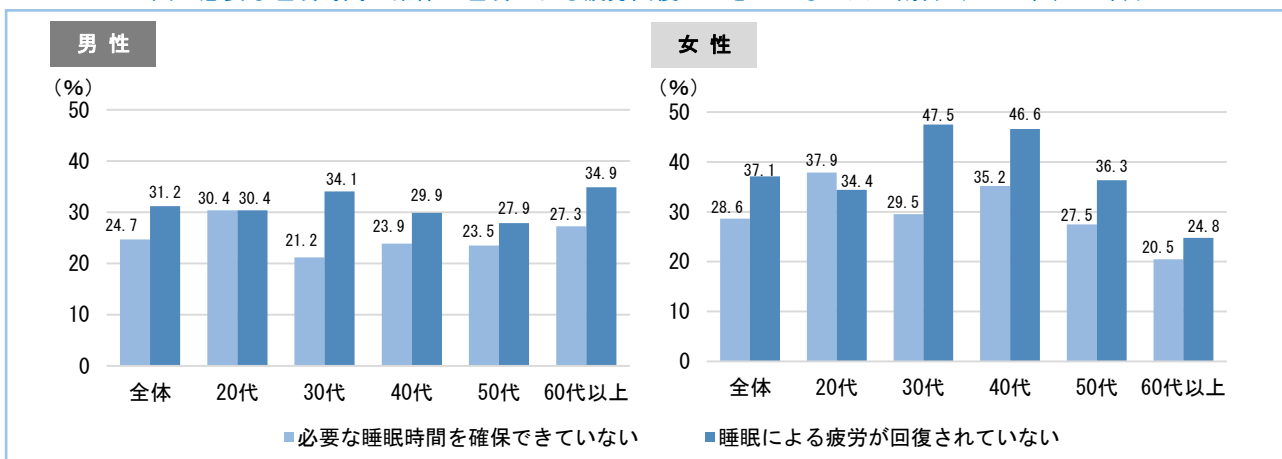


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(3) 休養

男性より女性が、必要な睡眠時間の確保、そして睡眠による疲労回復ができていない傾向にあります。特に女性30・40代において、その傾向が顕著にあらわれています。

図. 必要な睡眠時間の確保と睡眠による疲労回復ができていない人の割合（2017年 (H29年)）

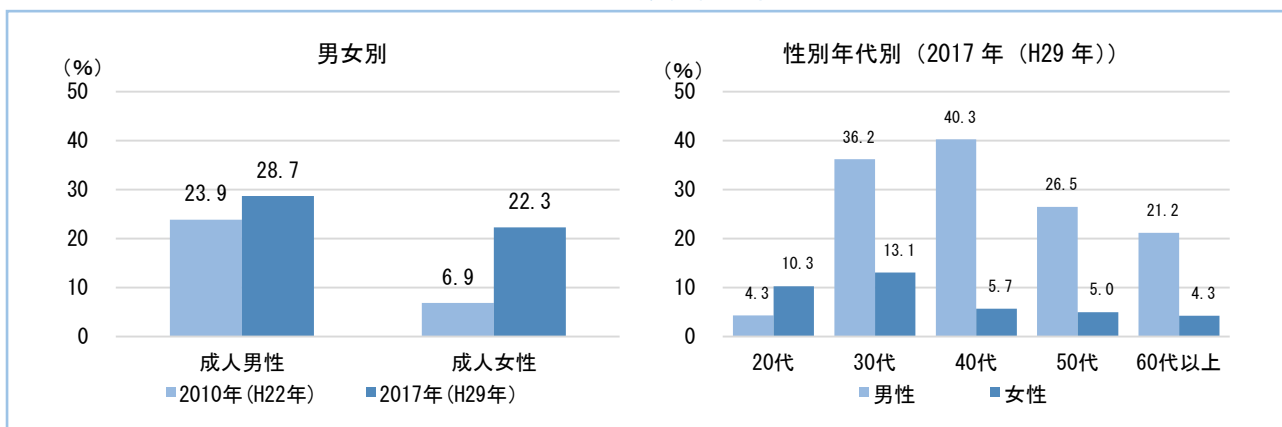


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(4) たばこ

喫煙者の割合は、前回調査と比べると、男性・女性ともに増加しています。年代別にみると、男性は30・40代の喫煙者が特に多く、女性は20・30代が多くなっています。

図. 成人喫煙者の割合

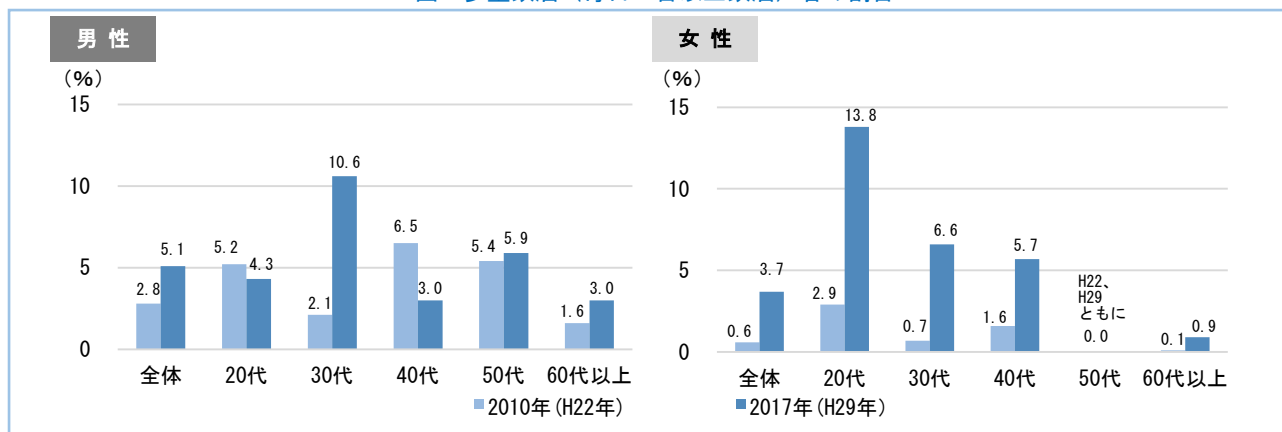


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(5) 飲酒

多量飲酒者の割合は、男性は30代、女性は20代が多くなっています。前回調査と比べると、男性の20・40代を除いて、男女ともに多量飲酒者の割合が増加しています。

図. 多量飲酒（毎日3合以上飲酒）者の割合



資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(6) 歯の健康

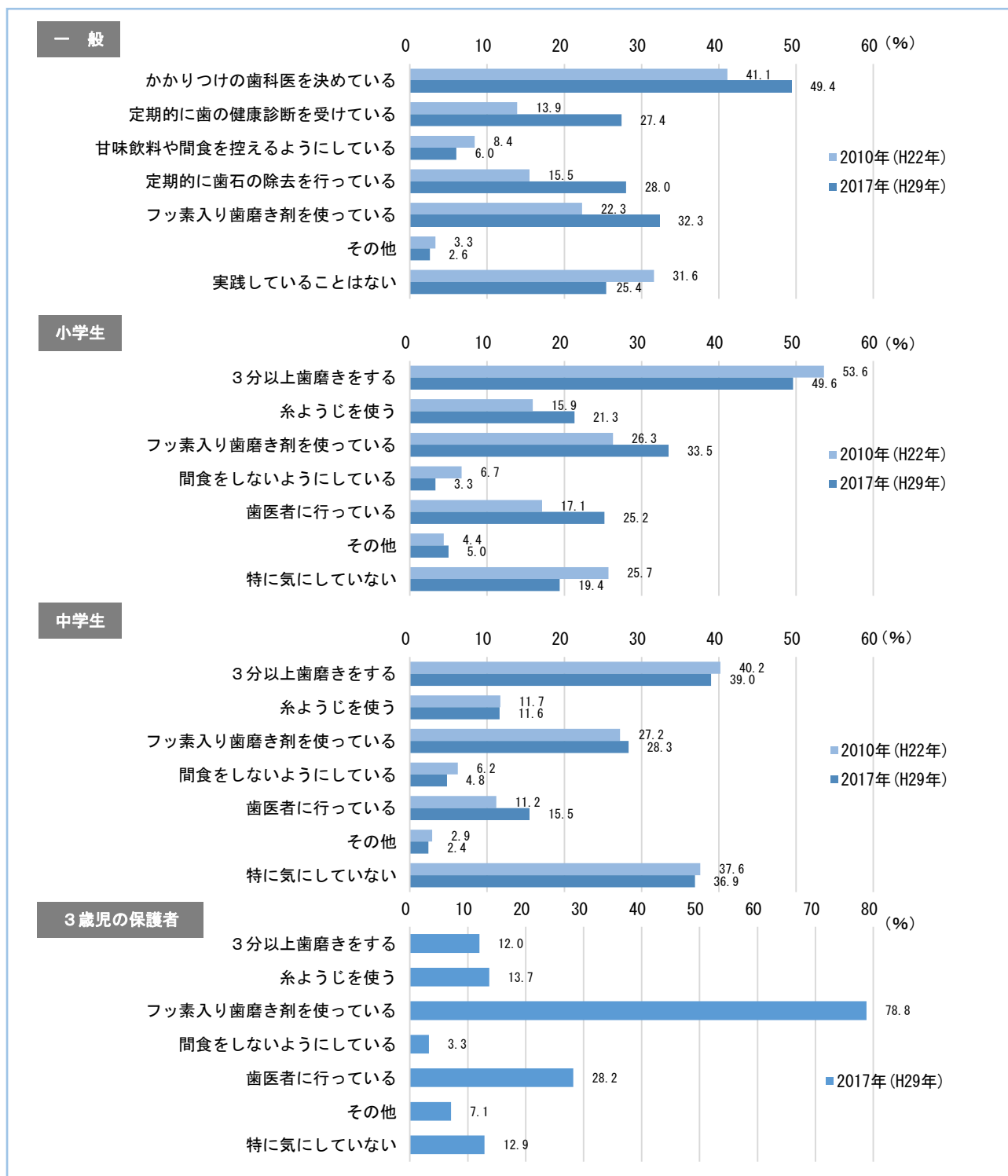
①歯の健康づくりのために行っていること

一般では、「甘味料や間食を控えるようにしている」を除くほとんどの項目で、前回調査に比べ増加しています。

小中学生は、「フッ素入り歯磨き剤を使っている」「歯医者に行っている」が増加し、小学生では「糸ようじを使う」も増加しています。

3歳児は、「フッ素入り歯磨き剤を使っている」保護者が最も多くなっています。

図. 歯の健康づくりのために行っていること（複数回答）

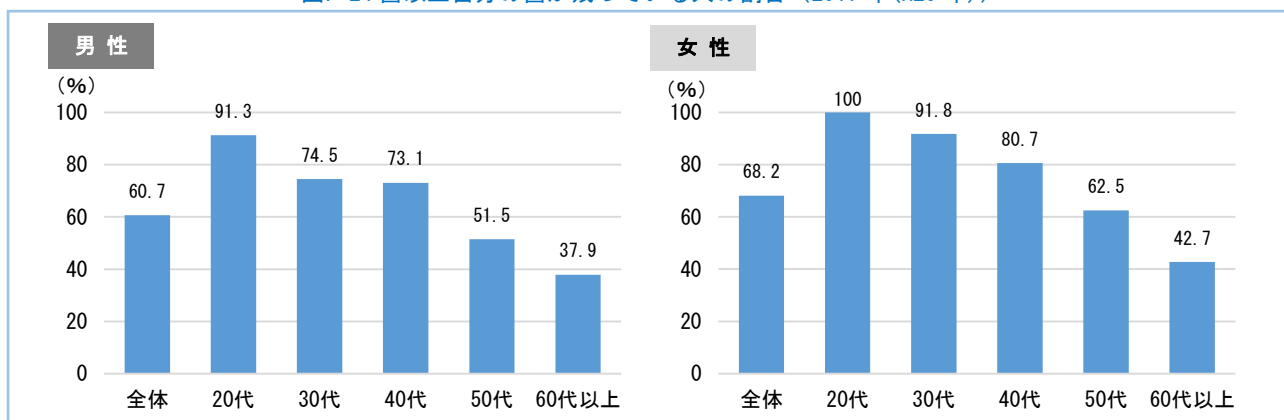


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般、小中学生、3歳児の保護者）

②24 歯以上自分の歯が残っている人

24 歯以上自分の歯が残っている人の割合は男性より女性が多く、男女ともに 50 代以降に大きく割合が減少しています。

図. 24 歯以上自分の歯が残っている人の割合 (2017 年(H29 年))

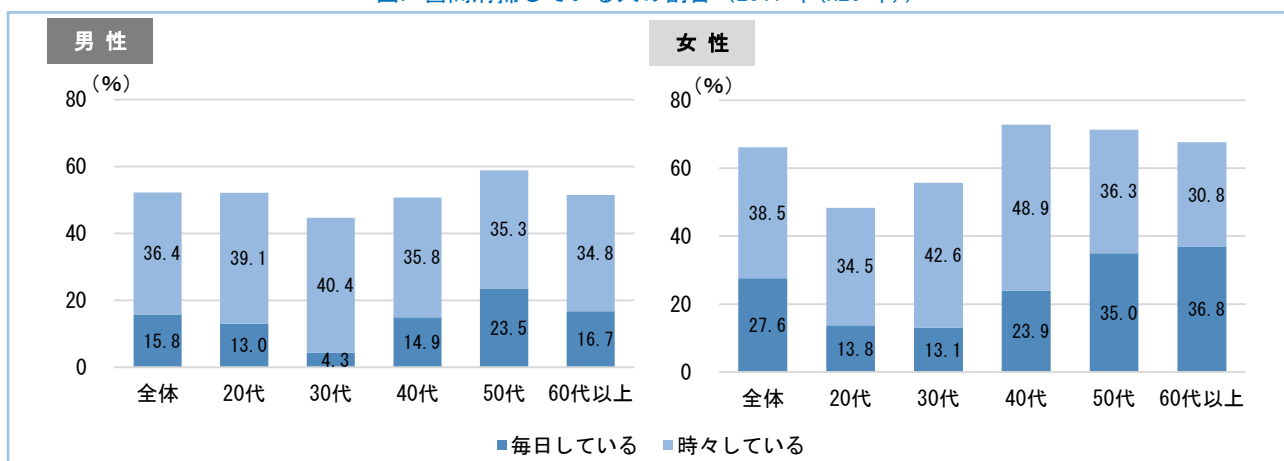


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

③歯間清掃している人

歯間清掃している人の割合は男性より女性が多く、女性は 20・30 代の割合が少ない傾向にあります。

図. 歯間清掃している人の割合 (2017 年(H29 年))

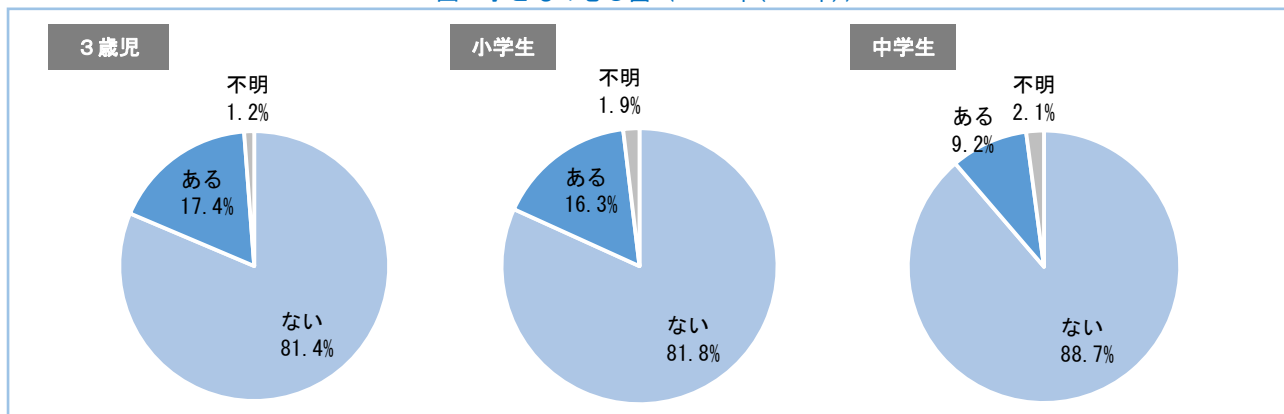


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

④子どものむし歯

3 歳児のむし歯の割合が最も多く、中学生では 1 割程度となっています。

図. 子どものむし歯 (2017 年(H29 年))



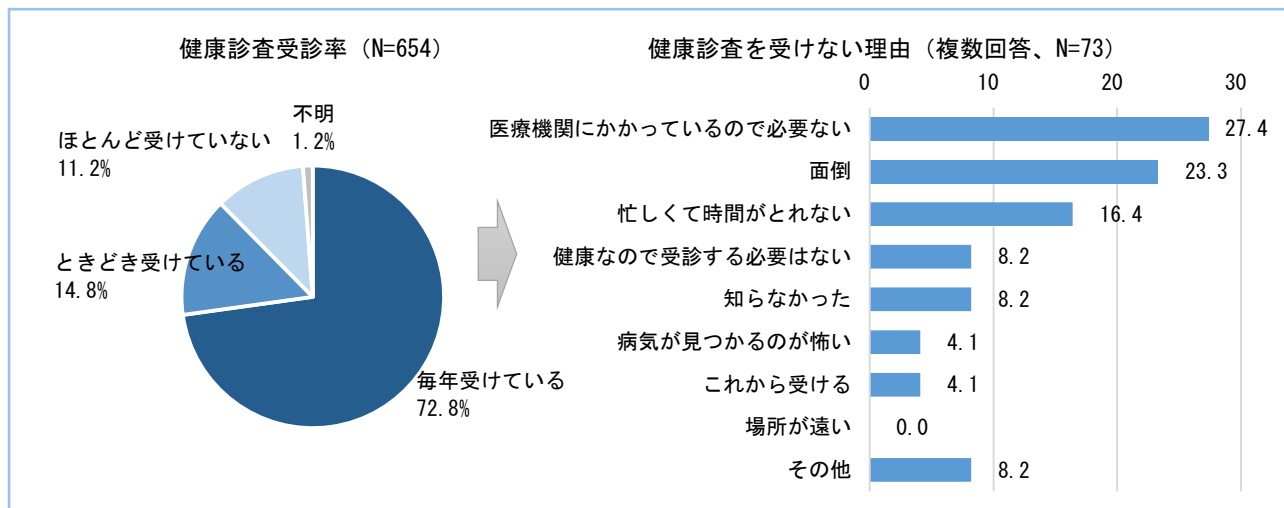
資料：白山市健康に関するアンケート調査（小中学生、3 歳児の保護者）

(7) 健康診査受診率

健康診査を毎年受けている人は約7割となっています。

一方、ほとんど受けない人は約1割となっており、その理由は「医療機関にかかっているの
必要ない」(27.4%)が最も多く、次いで「面倒」(23.3%)、「忙しくて時間がとれない」(16.4%)
となっています。

図. 健康診査の受診状況 (2017年(H29年))

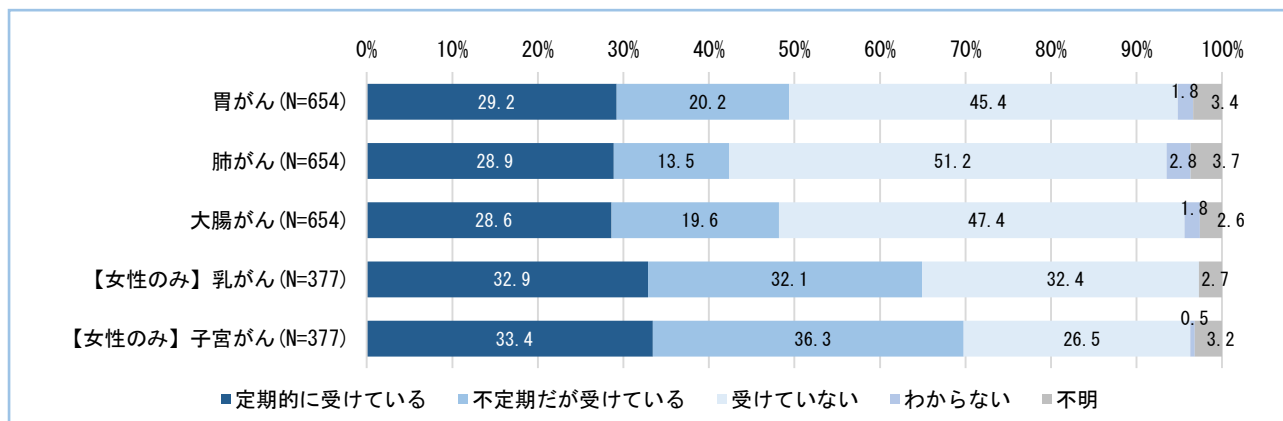


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(8) がん検診受診率

がん検診では、「子宮がん(女性)」(33.4%)が最も受診率が高く、次いで「乳がん(女性)」
(32.9%)、「胃がん」(29.2%)となっています。

図. がん検診の受診状況 (2017年(H29年))



資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

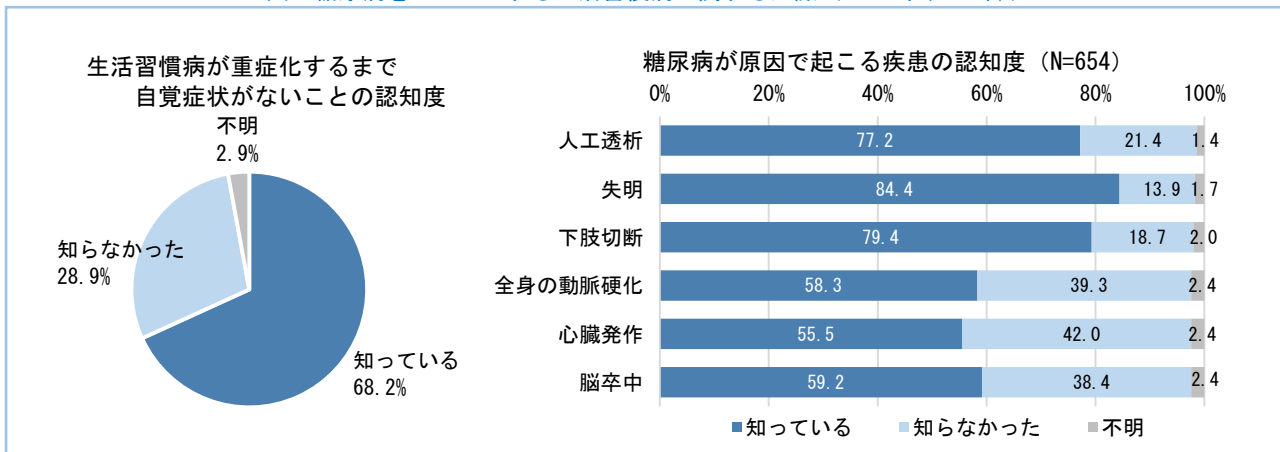
(9) 生活習慣病

①糖尿病をはじめとする生活習慣病に関する知識

「生活習慣病が重症化するまで自覚症状がない」ことを知らない人は、3割程度となっています。

また、糖尿病が原因で起こる疾患について「知らなかった」項目は、「心臓発作」(42.0%)が最も多く、次いで「全身の動脈硬化」(39.3%)、「脳卒中」(38.4%)となっています。

図. 糖尿病をはじめとする生活習慣病に関する知識 (2017年(H29年))

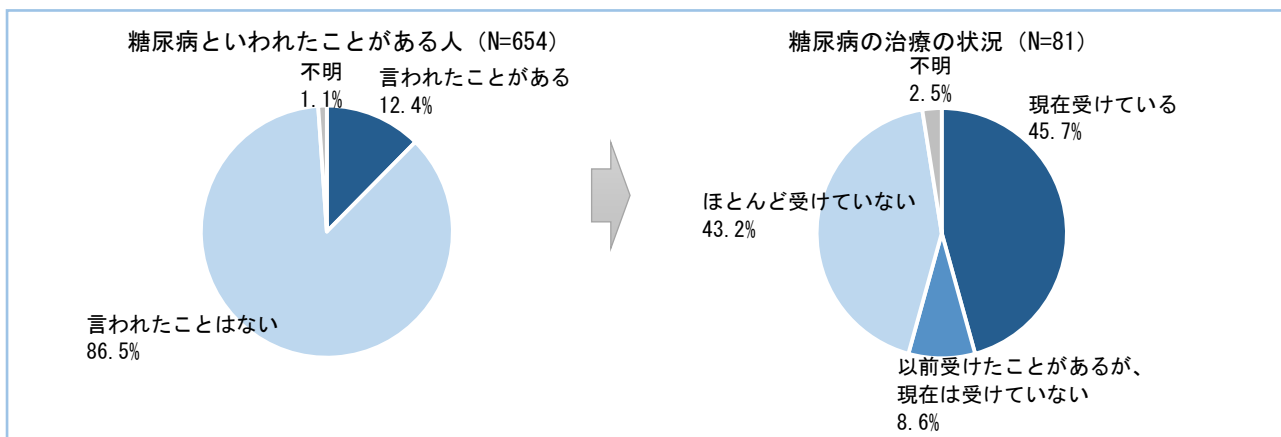


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

②糖尿病の治療

「糖尿病といわれたことがある人」は約1割となっており、そのうち約4割の人がほとんど治療を受けていません。

図. 糖尿病の治療 (2017年(H29年))

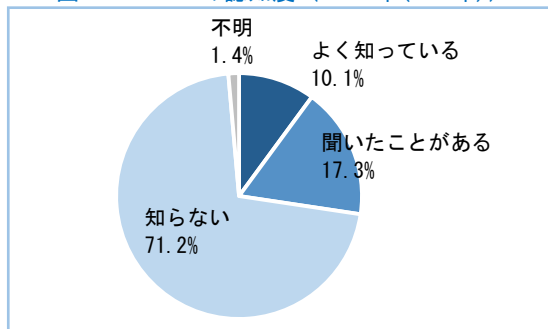


資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

(10) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に対する知識

COPDを知らない人は7割程度となっています。

図. COPDの認知度 (2017年(H29年))



資料：白山市健康に関するアンケート調査（一般）

第4章 施策の展開



■施策の展開■

健康づくりに関する各種施策の展開においては、上位計画である健康日本21（第2次）、いしかわ健康フロンティア戦略などの指針・方向性、そして、健康プラン（第1次計画）の評価を踏まえ、これまでの取り組みを見直します。

国の示す4つの柱の中でも大切な「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」（重点施策（5ページ参照））では、主な取り組みとなる保健事業（がん検診、特定健康診査、保健指導等）に力を入れ、「食べ過ぎ」・「飲み過ぎ」・「運動不足」など体に悪影響を及ぼす生活習慣の見直しを促し、健康寿命の延伸、延いては増大する医療費等の社会保障費の抑制につなげていきます。

健康的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none">・ 栄養・食生活・ 身体活動・運動・ 休養・ たばこ・ アルコール・ 歯の健康
社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	<ul style="list-style-type: none">・ 心の健康・ 子どもの健康・ 高齢者の健康
健康を支え、守るための社会環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 健康を守る環境整備
生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	<ul style="list-style-type: none">・ がん・ 循環器疾患・糖尿病・ 慢性閉塞性肺疾患（COPD）

※第4章では、課題別に

- ・ 「目標」
- ・ 評価の基準となる「目標項目」、「目標数値」
- ・ 市の取り組みである「今後の対策」

を掲載しています。

「目標項目」、「目標値」は、健康日本21（第2次）等を参考に市独自で設定しています。

1. 課題別の目標と対策

(1) 健康的な生活習慣の確立

① 栄養・食生活

本市では、女性より男性の肥満者が多い傾向にあります。男性は、食べ過ぎに注意する一方、塩分摂取に注意しない傾向が見られ、女性は、間食が多い傾向が見られます。食生活は最も基本的な生活習慣であり、子どもの頃から望ましい食習慣を身につけるための総合的な食育の推進が求められます。

【目標】

食べものに関する知識と食べものを選択する力を習得し、1日3回の食事を大切にできる市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
肥満者の減少 (適正体重を維持している人の増加)	小学生	A	1.7%	減少
	中学生	B	2.1%	減少
	20～60代男性	C	29.9%	20.0%以下
	40～60代女性	B	13.9%	12.0%以下
野菜を毎日食べる人の増加	男性	A	80.9%	増加
	女性	A	92.6%	増加
朝食を欠食する人の減少	小学生	A	2.5%	2.0%以下
	中学生	A	5.1%	5.0%以下
	20代男性	A	34.7%	15.0%以下
	20代女性	A	24.1%	15.0%以下
	30代男性	A	27.7%	15.0%以下
	30代女性	C	16.4%	15.0%以下
塩分に注意する人の増加	一般	C	62.5%	増加
食べ過ぎないように心がけている人の増加	一般	A	74.2%	増加
毎日間食をする人の減少	一般	C	40.2%	減少
栄養成分表示を見る人の増加	一般	—	33.0%	増加

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課	
望ましい食習慣を普及し、食育を推進します	健康的な生活リズムを普及啓発します	「食育の日〈毎月19日〉」・「食育月間〈6月〉」の啓発	地産地消課	
		「出前講座」等を通じた意識の向上		
	栄養・食生活の情報、学習の機会を提供します	広報・ホームページ等での栄養・食生活及びイベント等の情報提供	飲食店、事業所等を通じた栄養・食生活の情報の発信	地産地消課
			健診結果説明会等での食事摂取基準・健診データに基づいた栄養に関する情報の提供	
		食品の栄養成分表示等について、学習する機会の提供		こども子育て課 学校教育課
		保育所（園）・学校等の給食だより等を通じた保護者への栄養・食生活情報の提供		
地域の健康づくり活動を支援し、食育を推進します		食生活改善推進員等の増員と地域栄養教室等の開催	いきいき健康課	
		健康づくりのための食生活改善推進事業の実施		

○市民に期待する主な取り組み

- ・1日3食きちんと食べる食生活を実践し、間食に頼らず、健康な生活リズムをつくりましょう。
- ・食事摂取基準等に基づく食事の適量や栄養バランスを正しく理解し、健康的な食生活を実践しましょう。
- ・外食や食品を購入する時は、栄養成分表示を参考にしましょう。



食育講座

②身体活動・運動

本市では運動習慣者の割合は、策定時に比べ増加していますが、1日に6,000歩以上歩いている人の割合は減少しています。また、子どもが運動することが少なくなってきており、若年層から高齢者まで運動不足は共通の課題になっています。

心の健康や生きがいにも大きな影響を与える運動をより広義に捉え、市民が日常生活の中で気軽に取り組める「ながら運動」、地域や愛好者で取り組む各種スポーツ等の拡充、そして継続するための施設の充実、機会の確保等が求められます。

【目標】

運動習慣を身に着け、体を動かすことの楽しさを知り、自ら取り組む活動の輪を広げる市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
運動習慣者の増加	男性	C	39.0%	45.0%以上
	女性	C	37.1%	40.0%以上
1日平均歩行数の増加	男性	C	5,873歩	7,000歩以上
	女性	C	4,671歩	6,000歩以上



レッツお花見ウォーキング

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
身近で運動を実践できる場や機会を提供します	健康づくり運動教室等を開催します	初心者向け運動教室（筋力トレーニング等）の実施	スポーツ課
		体脂肪測定・体力測定の実施	
	歩く機会を増やします	ウォーキング強化月間の実施	いきいき健康課
		市民対象のジョギング教室の開催	スポーツ課
広く深くスポーツ活動を普及します	運動に関する身近な情報を発信します	ホームページにおける運動施設・大会等の情報提供	スポーツ課
	率先して運動に取り組むリーダーを養成します	スポーツ指導員の養成及び地域への派遣の紹介	スポーツ課
	運動のきっかけづくりを支援します	地域での302スポーツ運動実施への支援	スポーツ課
		ラジオ体操の普及	

○市民に期待する主な取り組み

- ・日常生活において「ながら運動」に取り組むなど、日頃から意識して体を動かしましょう。
- ・車を利用する回数・時間を減らしましょう。
- ・保育所（園）・学校・地域・職場等で開催される行事やスポーツレクリエーション等に積極的に参加しましょう。
- ・地域の運動施設を積極的に利用しましょう。

健康づくりのための歩き方を知っていますか？

健康づくりのための歩き方は、正しい姿勢で少し息がはずむ程度の速さで歩くことです。1日20分を目標に週2日程度から歩いてみましょう。また、ウォーキングを安全に行うために、次のことに気をつけましょう。

- ①楽しく自分のペースで歩きましょう。
- ②準備運動及び整理運動を行いましょう。
- ③水分補給を行いましょう。
- ④体調が悪いときは休みましょう。
- ⑤交通ルールを守り、歩道のある道は歩道を歩きましょう。
- ⑥夜間は明るい服装で、夜間反射材を身に付けて歩きましょう。

③休養

本市では、男性に比べ女性の睡眠時間が十分ではなく、睡眠による疲労回復ができていない傾向にあり、特に30・40代の女性にその傾向があらわれています。休養を十分にとることは、体の健康だけでなく心の健康にも欠かせません。睡眠不足や睡眠障害は、肥満・高血圧・糖尿病の発症・悪化要因であり、心疾患や脳血管障害を引き起こし、死亡率の上昇をもたらすことも知られています。

ストレスと上手に付き合っていくため、良好な睡眠をとり、適切な休養を日常生活に取り入れていくことが重要です。

【目標】

質の良い睡眠を確保し余暇活動にいそしむなど、積極的に休養をとる市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
睡眠による疲労がとれていない者の減少	男性	—	31.2%	15.0%
	女性	—	37.1%	15.0%
健康づくり活動への自主的な参加の増加	一般	—	17.4%	増加

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
良い睡眠の確保を支援します		睡眠に関する情報の提供	いきいき健康課
自然に親しみ、リフレッシュを図ります		緑と花のフェスティバルの開催	公園緑地課
		千代女あさがおまつりの開催	農業振興課
		地域資源を活用した心と体の健康講座の開催	いきいき健康課

○市民に期待する主な取り組み

- ・休養を積極的にとりましょう。
- ・日頃から自然とふれあい、適度に体を動かすなど、自分にあったリラックス方法を見つけましょう。
- ・ストレスと疲労がとれる睡眠を得るように心がけましょう。

④たばこ

たばこの煙には 200 種類以上の有害物質（ニコチン・タール・一酸化炭素等）が含まれており、妊娠中の喫煙及び受動喫煙は、早産、流産、そして低体重児が生まれる危険性を高めるほか、子どもの心身の発達にも大きな影響を及ぼします。また、最近流行している「加熱式電子たばこ」は、タールなどの有害物質を低減できますが、ニコチンを含むたばこであり、有害であることに変わりありません。たばこの煙は喫煙者のみでなく、周囲への影響も大きいため、今後更なる禁煙に向けた取り組みが求められます。

【目標】

たばこの害への理解を深め、禁煙に取り組む市民を増やします。

【目標とする数値】

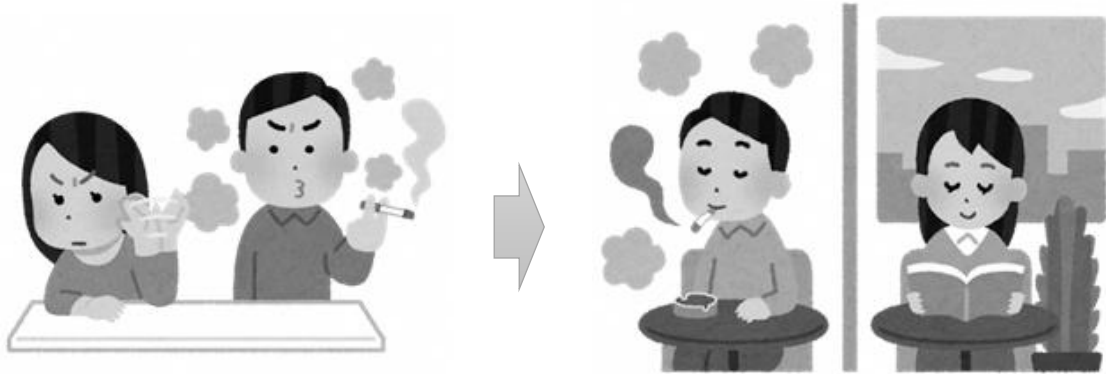
目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
成人喫煙者の減少	男性	C	28.7%	20.0%以下
	女性	B	6.6%	5.0%以下
公共の場のルーム形式分煙化の強化		A	76.2%	80.0%以上
家庭での受動喫煙の減少	一般	—	18.0%	減少
家庭以外での受動喫煙の減少	一般	—	63.5%	減少
職場での分煙の取り組みの増加	一般	—	2.5%	増加

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
禁煙・分煙に取り組めます		家庭・職場・施設における禁煙・分煙の推進	いきいき健康課
		ホームページによるたばこの害の情報提供	
		各種事業やイベントでのたばこの害の啓発	
		世界禁煙デーの周知	

○市民に期待する主な取り組み

- たばこの害や依存症について、あらゆる機会を通じて知るよう努めましょう。
- 喫煙者は禁煙に取り組み、周りに喫煙者がいる人は、たばこの健康被害を伝えましょう。
- 未成年者へのたばこの販売・推奨はやめましょう。
- 子ども・妊産婦等のいる場所での喫煙はやめましょう。
- 家庭での禁煙を進めましょう。



禁煙外来は「禁煙を成功したい人」のためにあります

禁煙を成功させたいという人に対し、医師が禁煙指導を行っているのが「禁煙外来」です。

禁煙外来では、ニコチン依存症の有無を調べて、ニコチンを含まない薬を服用するとともに、タバコが吸いたくなったときの対処法など、1人ひとりの状況に合わせたアドバイスを受けることができます。また、一定の要件を満たせば、禁煙治療に健康保険等が適用され、医療費の自己負担も軽くなります。

せっかく禁煙しようと思ったのですから、成功率が高い禁煙外来を利用してみませんか？

加熱式電子たばこなら、害は少ない？

最近、煙が出ない新しいタイプのたばこが登場しています。その一つが加熱式電子たばこです。

たばこの葉を電気で加熱して蒸気を発生させ、ニコチンを吸い込むものですが、ある調査によると、紙巻きたばこと同様に依存性があり、発がん性物質を含んでいることが指摘されています。健康被害の評価もこれからであり、安全性が証明されたものではないことを知っておきましょう。



⑤アルコール

本市の多量飲酒者の割合は、増加の傾向にあり、男性の30代と女性の20代の多量飲酒率が高くなっています。適度な飲酒は、ストレスを和らげ、コミュニケーションを円滑にするなど、良い効果がありますが、飲みすぎると、肝機能障害、糖尿病、そして高血圧等の生活習慣病を引き起こし、アルコール依存症になる危険性も高まります。妊娠中の母親の飲酒は、生まれてくる赤ちゃんの心身の発達に影響を与えます。未成年で飲酒をはじめると、アルコール依存症になりやすく、事件や事故に巻き込まれ、社会的な問題を引き起こす傾向があるため、未成年の飲酒は防止する必要があります。

【目標】

過度な飲酒は心や体の健康を損なうことを理解し、適量のお酒と付き合う市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
多量飲酒（1日3合以上飲酒）者の減少	男性	C	5.1%	減少
	女性	C	3.7%	減少

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
「適量の飲酒」の普及に努めます		各種事業・イベントでの節度ある飲酒の普及啓発	いきいき健康課
		アルコールの害の情報提供	

○市民に期待する主な取り組み

- ・飲酒による害や依存症について、あらゆる機会を通じて知るように努めましょう。
- ・お酒の飲みすぎに注意し、1週間に1～2日は休肝日をもうけましょう。
- ・未成年者にアルコールを売ったり、勧めたりするのはやめましょう。



アルコールと食べもの、どちらが先に消化されるの？

(正解) アルコール

からだは、アルコールを「毒」と判断し、食べものより先に消化・分解します。その間、食べものに含まれる栄養は、血液中に留まり、高血糖・高脂質の状態になるため、血管が傷みやすくなります。

(例) 日本酒を2合飲んだ場合…アルコール40g入っています。



飲み終わり時間が夜9時とすると



1合で午前0時に分解終了



2合で午前3時までかかる

午前3時以降に食べものの消化・分解が始まります

⑥歯の健康

本市では、男性より女性の方が、歯の健康に気をつけている傾向があり、「24 歯以上自分の歯が残っている人」、「毎食後の歯磨きや歯間清掃を行う人」の割合が男性より多くなっています。

歯と歯ぐきの手入れを怠ると、むし歯ばかりでなく歯周病にもなりやすく、歯周病は進行すると歯が抜けてしまうほか、心筋梗塞・糖尿病・肺炎・早産の原因になります。若いときから歯と歯ぐきの健康を守り、清潔に保つことが大切です。

また、よく噛むことは、消化を助けるだけでなく肥満の予防、脳の活性化につながるといわれており、丈夫な永久歯・あご・良い歯並びをつくるため、乳幼児期から歯と歯ぐきの健康を守り、バランスのとれた食習慣や規則正しい生活習慣を身につけることが大切です。

【目標】

いつまでも自分の歯で食事を楽しみ、健康な体を保つため、家族みんなで歯と歯ぐきの健康づくりに取り組む市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
歯間清掃する人の増加	一般	—	60.3%	増加
毎食後、歯磨きをする人の増加	一般	—	23.4%	増加
定期的に歯の健診を受けている人の増加	一般	—	27.4%	増加
60 歳以上で 24 歯以上自分の歯が残っている人の割合	60 歳以上男性	—	37.9%	70.0%
	60 歳以上女性	—	42.7%	70.0%

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
歯と歯ぐきを健康に保つよう支援します	歯科健診・相談を実施します	保護者も含めた歯科保健指導の実施	いきいき健康課
		妊婦歯科健診の普及啓発	
		【拡充】歯の健診、健康相談の開催（年1回）及び歯科健康相談（2か月に1回）、成人歯科検診の実施	
	歯の健康に関する情報を提供します	各種健診・相談を通じた情報の提供	いきいき健康課
	歯磨き習慣の普及に努めます	むし歯予防のための食習慣・歯磨き習慣の普及啓発	いきいき健康課

○市民に期待する主な取り組み

- ・甘味食品・飲料をとり過ぎず、よく噛んで食べる習慣を身に付けましょう。
- ・毎食後、歯を磨くように努めましょう。
- ・歯間部清掃用器具等を使って、歯の間や舌の汚れをきれいに取り除きましょう。
- ・保健センター等で実施される、歯科保健事業等に積極的に参加しましょう。
- ・子どもから大人までかかりつけ歯科医を持ち、専門的な歯・口腔清掃、歯石除去、適切な義歯の使用等、健康管理を定期的を受けましょう。
- ・妊娠したら、妊婦歯科検診を受診し、歯の健康管理に努めましょう。

むし歯、歯周疾患危険度チェック！

- 冷たい水が歯にしみる
- 歯や歯ぐきが痛む
- 朝起きたとき口の中がネバネバする
- 歯ぐきがむずがゆい
- 歯がしみたときに、時々血が出る
- 歯と歯の間にすき間ができています
- 歯ぐきを押しすとウミが出る
- 口臭がひどいと言われる
- 歯がグラグラする



(2) 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上

①心の健康

本市では、ストレスを感じる人の割合は増加しており、男性に比べ女性の方がストレスによる不調を感じる傾向にあります。また、ストレスを感じている人のうち、「死にたい」と思ったことがある人も、男性より女性が多くなっています。

人がいきいきと自分らしく生きるために、心の健康はとても重要です。心の病気として代表的なうつ病は誰にでも起こりうる病気ですが、本人や家族を含むまわりの人たちが気づかずに重症化させてしまう場合があります、病気への正しい理解が求められます。

【目標】

家庭・職場・地域社会での豊かなコミュニケーションを育み、心の健康づくりに主体的に取り組む市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
ストレスを感じた人のうち「死にたい」と思ったことがある人の減少	一般	—	17.6%	減少
※ゲートキーパーを知っている人の増加	一般	—	12.1%	増加
精神科等の受診に抵抗のある人の減少	一般	—	48.3%	減少

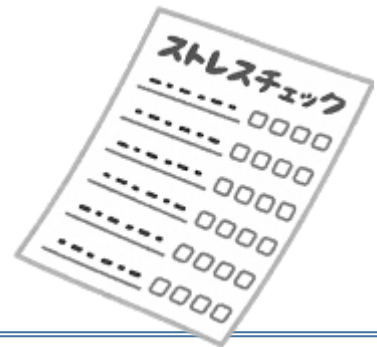
※「ゲートキーパー」 … 自殺のサインに気づき、適切に対応できる人（命の門番とも言われる）

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
心の健康に関する相談体制を整えます	気軽に相談できる窓口を周知します	精神保健福祉相談や電話相談についての情報提供	障害福祉課
		心の健康についての相談機会の充実による早期対応の実施	
精神疾患への正しい理解を促します		うつ病や心の健康に関する出前講座の開催	障害福祉課
		健康教育等様々な機会における、うつ病等への正しい知識の普及	いきいき健康課
心の健康の悪化要因を軽減します		【新規】心の健康づくりを含めた総合的な自殺対策の取り組み	いきいき健康課

○市民に期待する主な取り組み

- ・ 家族・友達・仲間等と過ごす時間を大切にし、コミュニケーションを深めるとともに、地域活動に参加するなど、豊かな人間関係をつくりましょう。
- ・ 心の不調を感じた時には、早めに専門医を受診しましょう。
- ・ 家族及び周囲の人が、早期の相談や受診に結びつけられるよう心の不調に気づいてあげましょう。
- ・ うつ病及びうつ状態についての正しい知識を得ましょう。



メンタルヘルスサポーター、お話し相手（傾聴）ボランティアを知っていますか？

社会福祉協議会では、心の病や精神に障害のある方について理解し、障害のある方の生活と社会参加を地域で支える「メンタルヘルスサポーター」を養成しています。

また、高齢者や認知症を患う方々を地域で支えるために、当事者や家族の話を聴き、心に寄り添う「お話し相手（傾聴）ボランティア」も養成しています。

	メンタルヘルスサポーター	お話し相手（傾聴）ボランティア
登録者数 （H29年度末現在）	48名 （うちH28登録数17名）	47名 （うちH28登録数14名）

問合せ：白山市社会福祉協議会 Tel：076-276-3151

②子どもの健康

妊娠前、妊娠期の母親の心身の健康づくり、そして子どもの健やかな発育とより良い生活習慣の形成は、生涯を通じて健やかで心豊かな生活を送るための基礎となります。また、健やかで心豊かな生活は、子どもが成長し親となり、その次の世代を育むときに、良い循環を生み出すことにもつながります。

第2次健康プランでは、「子どもの健康」として、健康な生活を送るための基礎づくりに取り組みます。

【目標】

愛情豊かに育てられ、正しい食習慣・生活習慣を身につけることで、主体的に心と体の健康の必要性を理解し、規則正しい生活リズムを送る子どもを育てます。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
メディア過多にならないよう注意する保護者の増加	3歳児保護者	—	86.7%	増加
スポーツに取り組む人の増加	小学生	—	62.0%	増加
	中学生	—	73.2%	増加
10時までに寝る子の増加	3歳児	—	79.7%	増加
妊娠中の禁酒の増加	3歳児保護者	—	99.2%	増加
妊娠中の禁煙の増加	3歳児保護者	—	97.5%	増加
「食育」を知っている人の増加	3歳児保護者	—	95.4%	増加
キッズ☆キッチン参加者数の増加	5歳児	—	156人	増加
栄養バランスに注意する保護者の増加	3歳児保護者	—	93.4人	増加
むし歯のある人の減少	3歳児	B	17.4%	15.0%以下
	小学5年生	—	16.3%	減少
	中学2年生	—	9.2%	減少

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
自ら健康管理に取り 組む意識を育みます	良好な食生活を実践 する力を育みます	妊婦教室での栄養・食生活に関する指導の充 実	いきいき健康課
		乳幼児・児童生徒への食育の推進	いきいき健康課 こども子育て課 学校教育課
		給食における、地域食材を活かした献立・郷 土料理の普及による食文化の伝承	こども子育て課 学校教育課
		保育所（園）・学校の給食時間での食に関す る指導の充実	
		食品の栄養成分表示等の学習機会の提供	学校教育課
		キッズ☆キッチン等の開催及びスタッフの育 成	地産地消課
		早寝・早起き・朝ごはん運動の推進	
	たばこの害について 周知します	妊娠・授乳中の喫煙の影響、健康被害の知識 の普及	いきいき健康課
		児童生徒への喫煙・受動喫煙の害についての 教育	学校教育課
		教職員等への指導者研修会の充実による喫煙 防止教育の強化	
	アルコールの持つ危 険性について周知し ます	妊娠・授乳中の飲酒の影響、多量飲酒の健康 被害の知識の普及	いきいき健康課
		子ども・保護者・地域社会への未成年者の飲 酒の害の周知	学校教育課
	歯と歯ぐきの健康の 大切さを周知します	母子保健事業等における乳幼児のむし歯予防 に関する知識の普及	いきいき健康課
子ども・保護者への歯と歯ぐきの健康に関す る知識の普及及び自己管理の大切さの周知		こども子育て課 学校教育課	
学校歯科健診・事後指導の実施		学校教育課	
子育ての不安の軽減 を図ります		【新規】金沢広域急病センターの開設による 夜間小児救急医療の充実	いきいき健康課
		【新規】子育て世代包括支援センターの設置 による切れ目のない支援	いきいき健康課 こども子育て課
		産後うつ・ハイリスク者への支援	

子育ての不安の軽減を図ります		関係機関と連携した発達に関する相談体制の確立	発達相談センター
		ストレスへの対処法、良質な睡眠についての相談・指導の実施	学校教育課
		電話相談・カウンセラーの設置等、心の健康相談体制の確立	
より良い成長を促します	健やかな心と体の成長を支援します	学校保健計画等に基づく性に関する正しい知識の教育	学校教育課
		健診結果への適切な事後指導のための情報提供、周知方法の充実	
		【新規】学校でのメンタルヘルス出前講座の開催	障害福祉課 学校教育課
		パパも一緒に子育て講座の開催	こども子育て課
		【新規】小中学生の白山登山の推進	生涯学習課
	運動習慣が身につくよう支援します	運動を好きになるよう、運動習慣の大切さについての知識の普及啓発	スポーツ課
	子育て世代の交流の場を提供します	地域での「子育てひろば」の設置の推進	こども子育て課
子育てサークルの活動支援			

○市民に期待する主な取り組み

- 妊娠・授乳中の喫煙、飲酒はやめましょう。
- 良い睡眠をとり、規則正しい食生活に努めましょう。
- テレビ・ゲームの時間を決めるなど、メディアと上手に付き合しましょう。
- 運動に興味を持ち、楽しんで体を動かしましょう。
- 歯を磨く習慣を身につけましょう。

「金沢広域急病センター」がオープンします！

「金沢広域急病センター」が、2018年（平成30年）春にオープンします。

- 場 所：金沢市駅西福祉健康センター（同市西念3-4-25）内
- 診療時間：19：30～23：00（年中無休）
- 診療体制：小児科医、内科医が常駐



③高齢者の健康

本市においても少子高齢化が進んでおり、2025年（平成37年）には人口の約3割が高齢者になると推計され、要介護等認定者数も毎年増加しています。QOL（生活の質）の向上を図るため、認知症対策や生活習慣病の重症化予防、骨・関節疾患の予防はもちろん、栄養や運動、社会参加や社会貢献を中心とした活動の充実を図ることが大切です。

第2次健康プランでは、「高齢者の健康」として、生きがいのある豊かな生活に必要な健康づくりに取り組めます。

【目標】

1年に1回は健康診査を受け、生活習慣病の発症及び重症化予防に取り組み、健やかな高齢期を過ごす市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
※(1) 要支援・要介護認定者数	一般	—	5,108人	※(2) 6,035人
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っている人の増加	一般	—	39.8%	80.0%

※(1) … 要支援・要介護認定者数は10月1日現在

※(2) … 約3.3%の伸びで抑えた場合の推計値

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
自ら健康管理に取り組めるよう支援します		健康教育・健康相談の充実による認知症・介護予防の取り組み	長寿介護課
		健診結果に基づくハイリスク者への指導	いきいき健康課
		健康教育・健康相談による歯周病予防の啓発	
生きがいのある健康的な生活を支援します	運動習慣獲得のきっかけづくりを支援します	地域における身体活動や運動を実践する仲間づくりの推進	スポーツ課
		個人の身体状況に応じた運動処方等、健康づくりのための運動指導・相談体制の充実	
		高齢者・障害者が参加できるスポーツレクリエーションの充実	スポーツ課 障害福祉課

生きがいのある健康的な生活を支援します	高齢者向け運動教室等を開催・支援します	高齢者スポーツクラブの育成	スポーツ課
		高齢者筋力向上トレーニング教室の開催	
		高齢者向けの体操・ストレッチの普及	
高齢者の生きがい、健康づくりを支援します	老人クラブの運営に対する支援	老人クラブの運営に対する支援	長寿介護課
		シルバー人材センターの運営に対する支援	
		高齢者入浴サービスの実施	
	ふれあいサロンの設置・運営に対する支援	長寿介護課 社会福祉協議会	
	中高年齢者を対象とした健康クラブに対する指導者の派遣及び活動への支援	スポーツ課	

○市民に期待する主な取り組み

- 運動習慣を身につけ、筋力の低下や転倒による骨折などを防ぎましょう。
- 1日3食、楽しくバランスよく食べることで、体力を養い健康維持に努めましょう。
- 日頃から歯と口のお手入れを心がけ、口腔機能の低下による低栄養状態や誤嚥性肺炎などを防ぎましょう。
- 運動習慣や社会参加などに積極的に取り組み、認知機能の低下を防ぎましょう。また、認知機能に変化が認められた場合、家族や周りの人が協力して、早めにかかりつけ医や専門医療機関に相談できるよう援助しましょう。
- 認知症予防についての正しい知識を得ましょう。



ノルディックウォーキング



体幹トレーニング

(3) 健康を支え、守るための社会環境の整備

①健康を守る環境整備

健康づくりは、個人中心の取り組みから地域社会を巻き込んだ大きな取り組みへと進化しており、その社会的、経済的影響はこれまで以上に大きくなっています。

市民一人ひとりが社会参加し、社会全体が相互に支えあえるよう、人と人のつながりを深めるとともに、市内事業所や団体等が自発的に健康づくりに取り組めるよう、健康を支えるための環境を整備することが必要です。

第2次健康プランでは、「健康を支えるための環境整備」として、※「見える化」により運動習慣の獲得に取り組む「はくさんタニタ健康倶楽部」の活動など、生きがいのある豊かな生活に必要な健康に関するインフラ（基盤）の整備に取り組みます。

※「見える化」…体組成計により体の内部をスキャンし、運動・食事により得られる、目に見えない体の変化を可視化すること

【目標】

健康づくりへの関心を広げ、それぞれの関心に応じた受け皿づくりに取り組みます。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
健康づくりに関する活動に自主的に参加している人の割合の増加	一般	—	17.4%	増加
食品や料理の栄養成分表示に取り組む市内飲食店や給食施設・食堂の増加	一般	—	33.0%	増加
分煙に取り組む職場の割合の増加	一般	—	2.5%	増加
受動喫煙の割合の低下（家庭以外）	一般	—	63.5%	減少
	小学生	—	45.5%	減少
	中学生	—	54.1%	減少
はくさんタニタ健康倶楽部の会員数の増加	一般	—	543人	1,000人以上

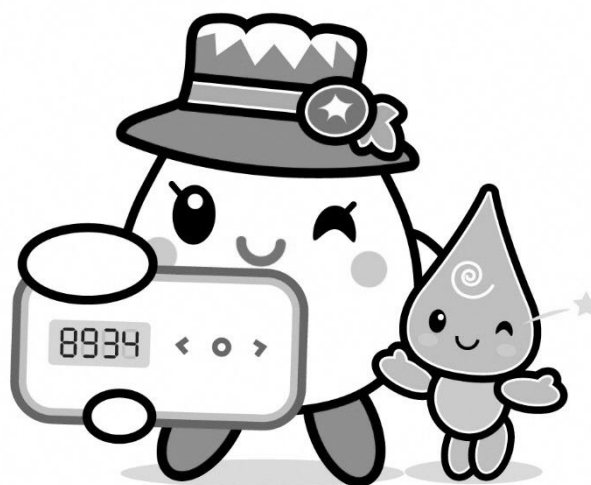


【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
人材育成に取り組みます		栄養士・調理員・食生活改善推進員等の研修の充実	いきいき健康課 こども子育て課 学校教育課
		体育協会による研修会の開催	スポーツ課
環境づくりに取り組みます		市公共施設での禁煙・分煙対策の強化	いきいき健康課
		地域住民に学校体育施設（体育館、グラウンド）を夜間・休日等に無料で開放	スポーツ課
		市民開放農園の設置	地産地消課
		身近で親子が遊べる場の提供	こども子育て課
		【新規】グラウンドゴルフ・パークゴルフ・マレットゴルフなど生涯スポーツ・レクリエーションが可能な公園の充実	スポーツ課 公園緑地課
		【新規】「はくさんタニタ健康倶楽部」自主企画事業の展開	いきいき健康課
	白山市健康大学の開催		

○市民に期待する主な取り組み

- ・健康づくりに関心を持ち、積極的に社会参加に努めましょう。



活動量計（はくさんタニタ健康倶楽部）

(4) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

健康づくりの様々な取り組みの中で最も大切なのが、がん検診、特定健康診査の受診、そして保健師・管理栄養士が行う特定保健指導による「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」です。国では、生活習慣病の発症・重症化予防による医療費の適正化に向けた取り組みとして、保険者努力支援制度を実施しています。特定健診及び特定保健指導の実施率、糖尿病等の重症化予防の取り組み状況等を点数化し、2018年度（平成30年度）より本格的に保険者にインセンティブ（動機付け）として財政支援する予定です。

白山市では、今後とも医療連携を進め、幅広く質の高い「生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底」に取り組みます。

①がん

本市の主な死因は、「がん」であり、2番目に多い「心疾患」の2倍以上となっています。がんによる死亡を減少させるため、生活習慣の改善と感染に起因するがんの予防、がん検診の受診勧奨等による対策が必要です。

【目標】

がん予防についての正しい理解を促し、年1回のがん検診を受けるなど、主体的に自らの健康を気づかう市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
がん検診の受診者の増加	胃がん	A	3,488人	4,100人以上
	大腸がん	A	7,782人	7,900人以上
	肺がん	B	4,666人	5,000人以上
	子宮がん	A	3,294人	4,000人以上
	乳がん	A	2,422人	2,500人以上

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
保健事業の充実を図ります	がん検診の受診の促進を図ります	市民の利便性を考えた受診体制の検討	いきいき健康課
		受診案内等個人通知による周知徹底	
		無料クーポン券事業を活用した特定年齢の方への受診勧奨強化	
		要精密検査未受診者への受診勧奨及び受診確認の徹底	
全市民を対象にがんについての正しい理解を促します		「健康診査のお知らせ」の年1回の全戸配布及びホームページ・広報・データ放送等を活用した積極的な情報発信	いきいき健康課

○市民に期待する主な取り組み

- ・がんに関する正しい知識を持ち、予防のために必要な生活習慣を身につけましょう。
- ・早期発見・早期治療のためにがん検診を受診しましょう。
- ・がん患者のおかれている状況を正しく理解し、適切な対応を心がけましょう。
- ・要医療・要精密検査になった場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。



②循環器疾患・糖尿病

循環器疾患（脳卒中、心筋梗塞等）は、がんと並んで主な死因となっています。循環器疾患による死亡を減少させるため、メタボリックシンドローム（内臓脂肪型肥満）対策に加え、高血圧や脂質異常症、糖尿病等のリスクを下げる取り組みが必要です。特に、糖尿病は心疾患のリスクを高め、網膜症や腎症等の合併症を併発することによってQOL（生活の質）等に大きな影響を及ぼすことから、発症予防による有病者数の増加を抑制するとともに、重症化予防が大切です。

【目標】

医療連携を進めながら、糖尿病など生活習慣病への正しい理解を促し、年1回の健康診査を受けるなど、主体的に自らの健康を気づかう市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2015 (H27)	目標値 2022 (H34)
特定健康診査を受ける人の増加	男性	B	46.9%	62.0%以上
	女性	B	56.1%	62.0%以上
特定保健指導を受ける人の増加	男性	A	75.5%	79.5%以上
	女性	A	83.0%	83.0%以上
高血圧症者の減少 (血圧受診勧奨値：140/90mmHg 以上)	男性	C	27.3%	24.0%以下
	女性	C	21.1%	18.0%以下
脂質異常症者の減少 (LDL コレステロール受診勧奨値：140mgg/dl 以上)	男性	B	19.6%	17.0%以下
	女性	B	28.4%	27.0%以下
糖尿病患者の減少 (HbA1c 受診勧奨値：6.5%以上)	男性	C	13.5%	12.0%以下
	女性	B	6.9%	6.0%以下
新規透析者数の減少	一般	C	25人 (H28)	減少

※現状値は、把握できる最新値を記載。



【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
保健事業の充実を図ります	特定健康診査の受診の促進を図ります	市民の利便性を考えた受診体制の検討	いきいき健康課
		受診案内等個人通知による周知徹底	
		個別訪問・電話・個人通知等による未受診者対策の充実	
		健診受診率アップにつながる健康づくり推進員の自主的な取り組みへの支援	
保健指導の充実を図ります		【新規】白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会への参加	いきいき健康課
		【新規】※ICTの活用による保健指導の充実	
		ハイリスク者に対する、生活改善への取り組みを促す保健指導の実施	
		家庭訪問・健康相談・健康教育等、市民の参加しやすい形での保健指導の実施	
		要指導・要医療と判断された人が生活改善に取り組み、適切な治療が受けられるよう情報提供・支援の実施	
		健康教育・健康相談の充実による未治療・治療中断の防止	
		「いしかわ糖尿病重症化予防プログラム」に基づく、新規人工透析者を減らす指導の実施	
		母子健康手帳交付時における保健指導の実施	
循環器疾患・糖尿病についての正しい理解を促します		健診結果にもとづいた個別健康教育	いきいき健康課
		「健康診査のお知らせ」の年1回の全戸配布及びホームページ・広報・データ放送等を活用した積極的な情報発信	

※ICT…「インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー」の略語で、情報通信技術と訳されています。

○市民等に期待する主な取り組み

- 脳卒中、心疾患及び糖尿病に対する正しい知識を持ち、必要に応じて保健指導や医療機関での専門的な指導を受けるなど、生活習慣の改善に努めましょう。
- 1年に1回は健康診査を受け、自分の健康状態の変化を把握し、生活習慣改善に努めましょう。
- 要医療・要精密検査になった場合は、すみやかに医療機関を受診しましょう。
- 自分の判断で治療を中断せず、継続しましょう。

生活習慣病は自覚がないまま進みます！

自覚症状がないため放置してしまい、気づいたときには入院が必要なほど病気が進行している場合があります。大切なのは、自分の体の状態を知り、生活習慣を見直し改善することです。定期的に健診を受け、生活習慣病の発症・重症化予防に努めましょう。

生活習慣を改善しないと、症状が悪化し…



体に良くない生活習慣	内臓脂肪の蓄積	血管が傷む	血管が狭くなる	血管が切れる・つまる
血管のつまりなし(正常値)		25%のつまり	50%のつまり	75~90%のつまり
自覚症状なし(軽症)				生活に支障(重症)

糖尿病はどのような症状が出るの？

糖尿病の自覚症状

- のどが渇く
- トイレが近い、尿の量が多い
- 空腹感が強く、食欲旺盛
- だるい、疲れやすい



多くの人は無症状！
「自覚症状がないから糖尿病ではない」は誤り

糖尿病の3大合併症は、神経、目、腎臓の障害です。

- 糖尿病性神経障害
- 糖尿病性網膜症
- 糖尿病性腎症



- 手、足の切断
- 失明
- 人工透析

③慢性閉塞性肺疾患（COPD）

COPDは、長期の喫煙習慣が主な原因であり、「肺の生活習慣病」・「たばこ病」とも言われています。認知度はまだまだ10%と低い状況ですが、禁煙による発症予防と薬物等による改善が期待できる疾患であることから、なるべく早く自ら治療に取り組むことが大切です。

【目標】

COPDの正しい理解を促し、年1回の健康診査を受けるなど、主体的に自らの健康を気づかう市民を増やします。

【目標とする数値】

目標項目		評価 2017 (H29)	現状値 2017 (H29)	目標値 2022 (H34)
COPDの認知度の向上	一般	—	10.1%	20%

【今後の対策】

対策	実務的な対策	取り組み	担当課
保健事業の充実を図ります		【新規】特定保健指導の一環として、禁煙指導の実施	いきいき健康課
COPDについての正しい理解を促します		【新規】禁煙指導及び「たばこをやめたい人」への禁煙サポート情報の提供	いきいき健康課

○市民等に期待する主な取り組み

- ・COPDを正しく理解しましょう。
- ・様々な禁煙サポートを活用し、積極的に禁煙に取り組みましょう。
- ・受動喫煙防止に協力しましょう。

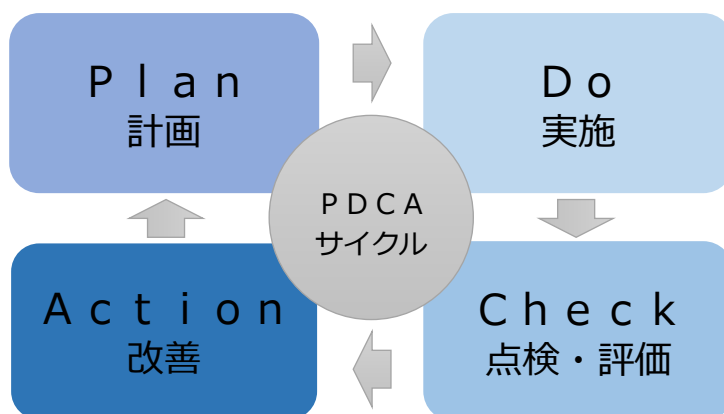


第5章 計画の推進



第2次白山市健康プランは、行政だけでなく、保育所（園）や学校等の教育機関、医療機関、健康づくり関係団体、地域ボランティア団体、企業などの健康に関わる様々な関係者が、各々の役割を理解し、社会全体の連携・協働によって推進していきます。

また、「Plan（計画の再策定・修正）」、「Do（事業の実施）」、「Check（実施状況の点検・評価、報告・公開）」、「Action（事業の継続または見直し）」という「PDCAサイクル」により、定期的に計画実施状況の点検・評価を行い、必要に応じて目標等の見直しに努めていきます。



參考資料

■健康づくりカレンダー（その1）

月	事業	内容
4月	レッツお花見ウォーキング	お花見を兼ねてウォーキング
5月	地域資源を活用した心と体の健康講座	水芭蕉園地の散策、白峰総湯でリフレッシュ
	緑と花のフェスティバルの開催 町内会、公共施設へ花苗の配布	緑と花についての意識の高揚
6月	地域資源を活用した心と体の健康講座	高山植物園の散策、白峰総湯でリフレッシュ
	早寝・早起き・朝ごはん運動	朝ごはんレシピ等を幼児・小学校低学年の児童へ配布
	食育月間の実施	
9月	白山路サイクルフェスタ	子どもからお年寄りまで参加できるサイクリング事業
	白山市福祉健康まつり	
	ウォーキング教室	
10月	白山市健康大学	
	スポーツでリフレッシュ！	ニュースポーツの体験
	町内会、公共施設へ花苗の配布	
	ウォーキング教室	
11月	まるごとタニタ体験会	はくさんタニタ健康倶楽部の活動紹介
12月	スポーツでリフレッシュ！	ニュースポーツの体験
2月	スポーツでリフレッシュ！	ニュースポーツの体験

※事業は、平成29年度現在実施されているものを掲載しています。

■健康づくりカレンダー（その2）

実施日	事業	内容
水・金	健康センター松任プールの開放	身体障害者等の介護予防等を目的に開放
火	体力測定	体力測定及び運動アドバイス
月1回	はくさんタニタ健康倶楽部 筋トレ教室	
月2回	はくさんタニタ健康倶楽部 タニタカフェ	会員相互の融和
6～12 月	キッズ☆キッチン開催	年長児を対象とした料理教室
冬期を 除く	都市公園内芝生広場において、生涯スポーツ（グラウンドゴルフなど）の推進	
通年	水中運動教室	水中運動など
	さわやかフィットネス教室	エアロビクスなど
	健康運動教室	筋力トレーニングなど
	貯筋教室	筋力トレーニングなど
未定	ジョギング教室	
	ラジオ体操会	
	指導者研修会	

※事業は、平成29年度現在実施されているものを掲載しています。

■ 策定経緯

年月日	会議等	その他
平成 29 年		
5 月 31 日	第 1 回健康づくり推進会議開催 ・第 2 次健康プランの策定について（協議）	
7 月		アンケート作成
8 月～9 月		アンケート配布、回収、分析 対象：3 歳児保護者、小学 5 年生、 中学 2 年生、一般市民
10 月 2 日	第 2 回健康づくり推進会議開催 ・アンケート結果について（報告） ・基本理念、基本目標、取り組み分野別目標について（協議）	
11 月		関係機関において行動計画の見直し
11 月 28 日	第 3 回健康づくり推進会議開催 ・第 2 次健康プラン（素案）について（協議）	
平成 30 年		
1 月 9 日 ～22 日		パブリックコメント
2 月 16 日	第 4 回健康づくり推進会議開催 ・パブリックコメント等の結果報告 ・第 2 次健康プラン（案）について（協議）	
3 月		公表

■白山市健康づくり推進会議委員名簿

(敬称略・順不同)

区分	氏名	職名等
学識経験者	柴田 紀子	金城大学社会福祉学部教授
保健医療機関代表	長尾 信	白山ののいち医師会理事
	奥谷 謙一郎	白山野々市歯科医師会副会長
	吉田 誠	石川県薬剤師会白山ののいち研修担当
関係団体代表	高井 康夫	白山市町会連合会代表（石川地区理事）
	森本 巖	白山市小中学校長協議会代表
	竹内 茂	白山商工会議所常務理事
関係行政機関	寺西 衣姫	石川中央保健福祉センター 企画調整課長
公募	宮本 牧子	
	大木 藤枝	

■白山市健康づくり推進会議設置要綱

平成18年12月12日

告示第287号

(設置)

第1条 市民の主体的な健康づくりを目的として白山市健康プラン(以下「健康プラン」という。)を策定し、健康プランに基づく施策を効果的かつ総合的に推進するため、白山市健康づくり推進会議(以下「推進会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 健康プランの策定に関する事。
- (2) 健康プランの総合的な実施に関する事。
- (3) 健康プランの普及啓発に関する事。
- (4) 健康プランの進行管理及び評価に関する事。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、目的達成のために必要な事項

(組織)

第3条 推進会議は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保健医療機関の代表
- (3) 関係団体の代表
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) 公募による者
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 推進会議に会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長は委員の互選により選出し、副会長は委員のうちから会長が指名する。
- 3 会長は、会務を総理し、会議を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長の職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

- 2 推進会議の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 推進会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 推進会議の庶務は、健康福祉部いきいき健康課において処理する。

(その他)

第8条 この告示に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成29年4月1日から施行する。

(白山市健康プラン策定委員会設置要綱の廃止)

2 白山市健康プラン策定委員会設置要綱(平成17年白山市告示第329の2号)は、廃止する。

■第2次白山市健康プランにかかるアンケート調査結果とりまとめ

※アンケート結果の詳細は、市ホームページに掲載しています。

[トップページ](#) ⇒ [健康・福祉](#) ⇒ [市民の健康](#) ⇒ [第2次白山市健康プラン](#)

からご覧ください

第2次白山市健康プラン
(2018年度(平成30年度)～2022年度(平成34年度))

2018年(平成30年)3月
発行・編集 白山市健康福祉部いきいき健康課
〒924-0865 石川県白山市倉光三丁目100番地
TEL(076)274-2155 / FAX(076)274-2158